ライオン誌(毎月20日発行)第56巻第9号 2014年2月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

LION

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International
WWW.THELION-MAG.JP MARCH 2014
3

今月のTHEME
追跡・東日本大震災Ⅳ

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判
224ページ
1部500円・送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部450円／500部以上400円

ウィ・サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

B6判
332ページ
1部800円・送料実費

ライオンズ新書02 LCIF早分かり

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判
176ページ
1部400円・送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部350円／500部以上300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン・ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判
224ページ
1部800円・送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

- 『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド …………　部
- 『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド …………　部
- 『ウィ・サーブ』日本ライオンズ半世紀の航跡 …………　部
- 『ライオニズムよ永遠に』メルビン・ジョーンズとその時代 …………　部

地区名 33　-	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒　-		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
March 2014, Vol.56 No.9

We Serve CONTENTS

■2014年3月号
表紙
岩手県大船渡市
穴通磯
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Barry J. Palmer
Your Lions Clubs
International President

家族と奉仕を共に……

人口1,500人のアメリカ・コネティカット州コールブルックは犯罪率が低く、住民同士が強い絆で結ばれています。この町の公立学校の評価はトップクラス。そして会員増強と奉仕の拡大を夢見るライオンズクラブがあります。

ライオンズ・メンバーたちは最近、YMCAキャンプで将来の構想を練り、数々のすばらしいアイデアを生み出しました。

「人々を奉仕へと駆り立てるのはその子どもたちです」

と、27歳のライオンレイ・ウィンは地元紙レジスター・シチズンに語っています。またライオンブラッド・ブレマーによれば、クラブはライオンズの「ブランド認知」を利用する必要があり、ライオンシャリ・グレイの意見では、人々から「十分に機能を発揮している」と見られるべきです。キャンプ当日のうちに会員増強、コミュニケーション、計画の各委員会が設けられ、彼らの胸にはクラブを発展させることへの新たな意欲が燃えていました。

皆さんはクラブにどのような夢を描いていますか？　どんなプログラムや事業を行えば、年齢や性別を問わずあらゆる会員への魅力を高めることが出来るでしょうか？

4月はライオンズの「ファミリー＆フレンド月間」です。家族と友人をクラブに招き、学習、奉仕、祝賀を共に実施してください。植樹や図書寄贈などの奉仕事業、あるいは一般公開行事やピクニックを催してもよいでしょう。**4月4日にはライオンズ世界ランチ・リレーが行われます。**地元と世界各地のライオンズの家族や友人を結び付ける方法として、この日に昼食会を計画してください。国際協会に各クラブの事業を登録すれば、参加者数、テーマ、フードドライブの規模を競い合うランチ・リレー・コンテストに参加出来ます。応募用紙と詳細は協会の国際公式サイト（www.lionsclubs.org）に掲載されています。

家族と共に奉仕することは計り知れない実りをもたらします。研究によれば、それは家族の価値観を子どもたちに伝え、彼らが人生で道を選ぶ助けとなり、大人と子どもの双方に新たなスキルを身に付けさせ、家族の対人能力や問題解決能力を高めます。ご存じのように、家族が同じクラブに入会する場合には特別な会費割引を受けられます。

クラブは会員を引き付け維持するために、年間を通じて彼らの満足度を高める必要があります。私たち独自の調査では、ライオンズ・メンバーがクラブに留まるのはその経験が楽しいからという結果が出ています。彼らはクラブの奉仕活動が好きであり、そこに居ることを心地よく感じているのです。

今すぐ会員増強の目標を描き、個々のクラブにとって有効な行動計画を練りましょう。皆さんの耳にはやがて、自らのクラブのローアが聞こえてくるはずです。

2013-14年度国際会長
バリー・J・パーマー

THEME

追跡・東日本大震災Ⅳ

東日本大震災の追跡取材第4弾。
被災地の人たちの声から、支援の在り方を考える。
また追跡取材を続けている3クラブの現状をリポートする。

東日本大震災 被災地の声から学ぶ

支援の鍵を握るもの

東日本大震災から間もなく3年。岩手県大槌町の事例を通して、被災地支援の在り方を考える。

２０１１年8月14日、震災後初めてのお盆を迎えた大槌町桜木町地区で、納涼盆踊り大会が開かれた。震災からまだ5カ月、自治会は祭りを断念しようとしたが、有志の手により開催にこぎ着けた。中心となった八幡幸子（ゆきこ）さんは、月灯りの下、久しぶりに町内の人たちが集まり、笑い合う姿を見て、うれし泣きした。

八幡幸子さんの場合

大槌町は震災により壊滅的な被害を受けた。海からは少し離れている桜木町地区も、小鎚川をさかのぼった津波に襲われた。堤防を乗り越えた濁流は、家々を破壊しながら、あっという間に住宅街を覆い尽くした。

八幡さんは、夫の正一さんと共に自宅2階からそれを見ていた。正一さんは2年前に脳梗塞で倒れて以来、身体が自由に動かなかった。「逃げるのは無理。お父さんと一緒なら」。八幡さんはそう覚悟を決めた。

幸い、津波は2階まで届かなかった。外を見ると、逃げ遅れた人たちの姿が見えた。八幡さんは、車の上に取り残された老夫婦を助け上げた後、冷たく濁った水に胸までつかり

ながら、更に2人を救助した。近所から避難してきた人も加え、八幡さんの家で10人が夜を明かした。
　しかし、津波でずぶ濡れになった1人は、その日のうちに亡くなった。
「助けられなかったことが悔しくて悔しくて……。それで、この思いを復興にぶつけようって思った」
　そうは言っても、水が引いた後の町はめちゃくちゃだった。経営していた食料品店は1階の天井近くまで浸水し、店内は泥だらけだった。店のローンは半年ほど前に払い終わっていたが、また一から再スタートをするのは並大抵ではない。その上、夫婦で暮らしていた自宅も、次男が住むため改装を終えたばかりの家も、津波でやられていた。内心、店を続けるのは無理だと思った。
　大槌町では震災後に火災が発生し、桜木町にも火の手が迫ってきた。そのため、八幡さん夫婦は正一さんが利用していた介護老人保健施設「ケアプラザおおつち」に避難した。ここには既に大勢の町民が避難しており、食べるものに困る状態だった。
　そこで八幡さんは店の商品を拾い集め、凍り付くような冷たい沢の水で、袋や容器に付いた泥を落とし、避難所で配った。そんなことを続けるうち、桜木町には店が必要だ。みんなのため、何としても店を再開させなくては、と思うようになった。
　そして震災から1週間程経ったある日、八幡さんは正一さんに尋ねた。
「お父さん、お店どうしますか」。すると、正一さんは即座に答えた。
「やります」。その日から八幡さんの精力的な活動が始まった。
「町は跡形もなくやられたけど、桜木町は残った。ここから大槌を復興させなくちゃって！　何か一人で力んでたねぇ（笑）」
　八幡さんの店を手伝っていた藤原良子さんも、震災翌日から自力で家の片付けを始めた。4月から次男が千葉の会社に就職することが決まっていた。ちゃんと送り出してあげなくては。電気も水道もないため、夜は避難所に泊まり、朝から夕方まで自宅の後片付けをする日が続いた。どうなりこうなり片付けが終わったのは3月28日。
　ボランティアが桜木町に入って来たのは、その翌日のことだった。

遠野まごころネット

　大槌町では、災害対策本部を立ち上げるべく町庁舎に集まっていた町長始め町の幹部職員が津波にのまれ、そのまま消息を絶った。ボランティアセンターの中心となるはずの社会福祉協議会も、会長、事務局長ら4人が亡くなっていた。
　社協職員24人は要介護者24人と共に「ケアプラザおおつち」に1週間間借りした後、社協施設の「デイサービスセンターはまぎく」に移った。職員の大半は自分の家族の安否も分からないまま、当番を決め要介護者

の世話をした。

そして一人の犠牲者もなく利用者を送り出した後、体制を一新。疲労は限界を超えていたが、若い職員を中心に災害ボランティアセンターを立ち上げ、急務だったボランティア対応に当たり始めた。当初の仕事は、住宅地での浸水家屋の泥出しや片付けに集中した。行政の手は届かず、高齢者世帯や仕事を抱える世帯では、自力で後片付けを続けるうち体調を崩す人も出ていた。

一方、沿岸部から約40キロの内陸にある遠野市では市民らが中心となり、被災地への支援態勢を整えるべく、3月28日に「遠野まごころネット」を結成。被災地の宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市までほぼ等距離という地の利を生かし、全国からのボランティアや支援物資の受け入れを始めた。

遠野まごころネットが最初に向かったのは桜木町地区だった。浸水家屋の片付けを優先したのだ。期せずして、災害ボランティアセンターと歩調を合わせる格好になった。

が、初日にボランティアの派遣を希望したのは、1人だけだった。避難所を回ったスタッフは、「知らない人がいきなり来て、困っていることはないかと聞いても、頼みづらい

のは理解出来る。特に若い女性は不安そうだった」と報告した。「見ず知らずの人に家をかき回されるのは抵抗がある」「大事な記念品をゴミ扱いされかねない」。そんな思いもあるのだろうと推測出来た。

その上、ボランティア側の態勢も整っておらず、初日の作業に参加したのは5人。道具はスコップ5本と手押し車4台だけだった。約３７０戸ある浸水家屋のことを考えると、気が重くなる状況だ。それでもボランティアたちは黙々と水につかった家具や家電を運び出し、ヘドロ状の土を家の中からかき出した。家屋清掃隊長の林崎慶治さんは「今日がなければ2歩目もない」と言った。

翌日、八幡さんは避難所に配られた新聞で、桜木町でボランティアが活動していることを知った。行ってみると、15人程のボランティアが、何人かずつ手分けして、幾つかの家で片付けを始めるところだった。ただ、何から手を付けていいのか戸惑っている様子だった。そこで八幡さんはボランティアを集め、「悪いけど、1軒1軒片付けてください」とお願いし、自分も一緒になってよその家の掃除を始めた。

「1軒片付けるのに4、5日掛かったかな。自分の所は後回し。店を早

く再開させたかったけど、それよりもまず、桜木町を奇麗にしたかった。無残な姿を見るのが辛かったから」

　やがて毎朝10時になると、ボランティアから電話が入るようになった。

「八幡さん、着きました」

「ハイ、いま行きます」

　中には、東京など遠方に避難している家もあった。八幡さんは、それらの人たちとも連絡を取りながら、順番に片付けを進めていった。

「あちこちに泥水が入ってるから、それを頭からかぶっちゃったり、蒲団なんかも塩水が入ってかびてるし、ものすごく重たいの。でも、ボランティアさんはみんな一生懸命やってくれて、本当に助かりました」

西本吉幸さんの場合

　北海道の西本吉幸さんが、遠野まごころネットに入ったのは4月6日のことだった。

　西本さんは最初、新潟県長岡市の社会福祉協議会に集められていた支援物資を、岩手県盛岡市の「SAVE　IWATE」ボランティアセンターに届ける役目を引き受けた。2トントラックに物資を満載し、盛岡を目指したが、東北自動車道は救援物資を運搬するトラックで渋滞。パーキングエリアも駐車スペースが無く、本線まで車があふれる状態だった。更にたどり着いたボランティアセンターでは被災地の情報が乏しく、有効な配送ルートを確立出来ていなかった。結局、「立ち上がったらしい」という情報を元に、遠野まごころネットへ向かうことになった。

　遠野まごころネットに着き、物資の配送先を聞いたが、案内されたのはすぐ隣の体育館。仮設の物資集積所になっており、膨大な数の物資が整然と置かれていた。

「白菜など生鮮食料はすぐさま行き先が決まり安堵しましたが、米などその他の食料品は、体育館へ運ばれていきました」（西本さん）

　その後、西本さんは片付け作業から戻った林崎さんに会って話を聞き、翌日からボランティアの作業道具を運搬する仕事を引き受けることになった。その日から3週間、西本さんはトラックの小さな運転席に寝泊まりしながら、桜木町へ通った。

　西本さんが小樽市の自宅を出発したのは4月1日。フェリーで向かった先は新潟だった。そこで西本さんを迎えたのは、新潟県・長岡ライオンズクラブの丸山隆会長だった。

　丸山会長は3月27日に日本ライオンズによる支援物資配送に参加。その折、福島県猪苗代町に設置された332・D地区の支援物資集積所で、同じく支援物資配送に参加していた兵庫県・明石魚住ライオンズクラブのライオン橋本維久夫と情報交換を行った。

　丸山会長は、建設機材のリースをしている同じクラブのライオン鈴木義行が、長岡に開設された東日本大震災ボランティアバックアップセンターに関係し、災害救援登録済みのトラックを持っていること、更に長岡の社協に支援物資が集まっているが、被災地まで配送してくれる人がいないことを告げた。そこでライオン橋本はボランティア精神に富む友人、西本さんに白羽の矢を立て、すぐに連絡。ライオンズ経験者でもある西本さんは、ライオン橋本の依頼を快諾し、被災地での活動を決断した。

　西本さんは桜木町で活動しながら、被災した人たちの話を聞いて歩いた。足りないもので、遠野の体育館に物資があれば、それを住民に届けるようになった。そのうち、住民が必要とするものが徐々に変化し始め、集積所にある物資では間に合わなくなってきた。

　そこで西本さんは、丸山会長やライオン橋本が参加しているライオンズ関係者によるソーシャル・ネットワーク「ライオンネット」を通じて、全国のライオンズから物資を集め、それを必要とする人たちに届けることにした。自衛隊から給水を受けるための20リットルポリ容器が重いと書き込むと、10リットルの容器350個が届き、被災した家からヘドロなどを運ぶための土のう袋がいると言えば、1万枚以上の土のう袋が届いた。「ライオンネット」に参加する多くの会員が情報を共有し、被災した方たちに思いをはせながら支援物資を送ってくれた。

ライオンネット

「ライオンネット」はもともと、国際協会公認のインターネット・リンクサイトで、Eクラブハウスの運営者でもあるアメリカのダン・ウィッティ元地区ガバナーらが中心となって設立された。各国語版はライオンネット・インターナショナルから委託されたボランティアによって管理され、日本語版は現在8人のメンバーが携わっている。

　また、2007年からは日本語版独自の機能として、災害時における緊急支援などを目的にソーシャル・

ライオンネット有志は2011年5月4日、福島県新地町に11地区43人の会員が参集して炊き出しイベントを開催。半数の人はその足で大槌町へ向かい、翌5日、桜木町地区でも炊き出しイベントを行った。桜木町の地域の人たちも一緒にイベントを盛り上げ、絆を深めた
写真提供：ﾗｲｵﾝ高橋昌男（千葉県・松戸ユーカリ ライオンズｸﾗﾌﾞ）

ネットワークを立ち上げた。その年発生した新潟県中越沖地震では、クラブの枠を超えて有志による炊き出し奉仕を実施。その後もインターネットを活用して、スピードと機動力を生かした支援活動を展開するなど、大規模災害に対応してきた。

　もちろん、東日本大震災でも即座に行動。八複合地区として実施した福島での支援物資配布には、各地の会員が実働部隊として参加した。西本さんが被災地入りしてからは、彼が情報源となり、支援活動が活発化。4月21日には西本さんを送り込んだ張本人、ライオン橋本が約1100キロ離れた明石から桜木町に入った。

　その前夜、遠野まごころネットに「大槌に支援物資が一切届かない家庭がある。どうにかしてほしい」という情報が寄せられた。西本さんは翌朝、トラックに物資を積み込み、ライオン橋本と共にその家庭を探した。半日掛かりで探し当てた家には、10人のお年寄りが暮らしていた。最初は避難所にいたが、避難所になじめず、共同生活をすることにしたのだという。避難所から出てしまったことで食料や衣類はほとんど無く、5枚のふとんを分け合って寝ていた。

　到着早々、在宅被災者が置かれた過酷な状況を知ったライオン橋本は、その支援に全力を挙げることを誓った。まず、桜木町地区で拠点となってくれそうな家を探した。そこで目を留めたのが看板に書かれた「米」という文字だった。同業のよしみで頼んでみよう。そう思って車を降り、声を掛けたのが、八幡さんの店で片付けをしていた藤原さんだった。

　ボランティアとの作業から戻って来た八幡さんは、支援物資の配布拠点になってほしいというライオン橋本の依頼を二つ返事で引き受けた。というのも、ご主人が以前、大槌ライオンズクラブに在籍していたため、ライオンズクラブの何たるかを知っていたのだ。しかも、西本さんとは既に一度、仕事をしていた。

　桜木町の集会所脇に、住民の心の拠り所になっている祝田観音がある。この観音さまのいわれを書いた碑が、倒れたままになっており、西本さんにトラックの車載クレーンで元に戻してもらっていたのだ。

　ライオン橋本は翌日、北海道から駆け付けて来たライオン大広直（倶知安ライオンズクラブ）と合流。それぞれが運んできた寝具を「ファミリーショップやはた」の倉庫に下ろした。更にその翌日には、千葉県からライオン高橋昌男（松戸ユーカリライオンズクラブ）とライオン高木次雄（野田ライオンズクラブ）が、トラックに満載した野菜と共に洗濯機や自転車などを運び込んだ。茨城県・常陸太田からもライオン根本龍司らが、寝具やカップ麺を積んだ4トントラックで到着。先発の千葉組に手伝ってもらいながら、八幡さんの所に支援物資を預けた。こうして桜木町を舞台に、思いを持つ人たちが少しずつつながり始めた。

情報、人、そして仲間

　東日本大震災では被災後も自宅生活を続けた在宅被災者に、食料や物資が届かないケースが多かった。各県とも「避難所にいる被災者」を前提に防災計画を立てていたことが原因と考えられる。震災から数カ月が経った頃でさえ、在宅被災者数の調査をしていない自治体もあり、実態不明の状態が長く続いた。

　そのため、NGOやNPOなど外部からの支援も、基本的に避難所をベースに行われた。日本赤十字社が海外救援金により配布した家電6点セットも、配布対象は仮設住宅に限られ、在宅被災者は長い間、孤立無援の状態に置かれていた。

「ライオンズの皆さんと出会えて幸運だった。在宅に目を付けてくださったのが、本当にありがたかった。もし、ライオンズの支援がなかったら、どうしてたかなあ……。多分、仕方ないって諦めてたでしょうね」

　八幡さんはそう話す。

　そして「一人で力んでた」八幡さんは力強い味方を得て、桜木町から大槌を復興させるため、地域の仲間たちと一緒に、ライオンネットを通じて送られた支援物資の配布や、浸水家屋の片付けを続けた。更にゴールデンウィークの5月5日には、ライオンネット有志による炊き出しイベントを受け入れた。

　このライオンネットの炊き出しがあった日の夜、全国から大槌町に派遣されていた保健師が聞き取り調査を行っている。桜木町の婦人部も調査対象となり、その際、復興に向けて必要なこととして、物資や住環境以外に「情報」「支援の鍵になる人」「仲間」の三つが挙がった。

「情報」は、それを得る手段だけではなく、情報をいかに共有し、自分たちから発信していくかが課題と考えられた。八幡さんは、病院や店の情報など、自分が見たものは必ず他の人に話し、共有するようにしていたという。また、支援する側にとっても情報は大切だ。現地で活動した

西本さんは、その辺りを「被災された方のニーズを現場で直に聞き、必要な物資を遠野まごころネットで調達したり、ライオンネットを通じて集めて頂いたことで、的確な支援活動が出来た」と語る。

「支援の鍵になる人」についてはその人を支えること、更に1人から複数に増やしていくことが挙げられた。桜木町のケースでは、八幡さん、西本さんがキーマンとなったが、これには行政や社協の職員、あるいは現地で活動するボランティアなど、多くの人が当てはまるはずだ。そして、これら支援をする人たちが燃え尽き症候群（バーンアウト）にならないよう、側面的な支援をすることも大切なことだろう。西本さんも「3週間の活動中、何より大きかったのは多くのライオンズ・メンバーが支えてくれたこと」と話している。

また、西本さんは自身の経験から、ボランティアに対する環境面の支援も必要だと語る。「ボランティアは暖房の無い体育館で寝泊まりし、食事は遠野のコンビニで調達するなど過酷な状況で活動を続けていました。『ボランティア難民』とも呼ばれていましたが、今後はボランティア活動をする人たちにも温かい手を差し伸べることを考えるべきでしょう」

2011年8月14日、八幡さんの呼び掛けに応えたライオンネット有志が再び桜木町に集まり、納涼盆踊りの裏方として活動した
写真提供：ライオン根本龍司（兵庫県・明石魚住ライオンズクラブ）

最後の「仲間」は「不安な時に声を掛け合う近隣の存在」「仲間に会うことで安心感を得る」「観音さまの仲間の協力」と、地域の力がいかに大きいかを改めて認識させられるものだった。6月7日に店を再開させた八幡さんも「再開にこぎ着けられたのは地域の人たちのおかげ。みんなが励ましてくれたから。今までは自分のための店だったけど、今度はみんなのための店にしたい。がんばります」と話した。

◆

そんな中、8月14日には震災からの復興を願って、祝田観音祭りが開かれた。やぐらにかける紅白幕も提灯も津波で流された。もちろん、浴衣もない。しかし、ライオンネットの有志が協力してくれ、提灯の代わりに常陸太田から運ばれた１０８個の灯籠が揺らめく中、全国のライオンズから贈られた浴衣を着た人たちが、笑顔の輪を作った。

祭りは桜木町再生の第一歩だった。

（取材／鈴木秀晃）

※編注：西本吉幸さんは２０１２年7月からライオンズに復帰、また八幡幸子さんは12年12月に大槌ライオンズクラブへ入会し、現在は二人ともライオンズのメンバーとして活動しています。

被災クラブ追跡取材～岩手県・陸前高田ライオンズクラブ

元通りのクラブへと力強く歩みを進める

前回の追跡取材第3弾（2013年3月号）から1年振りに陸前高田ライオンズクラブを訪問するため、気仙沼駅と大船渡市の盛駅の間を走るBRT（バス高速輸送システム）を利用した。JR大船渡線のこの区間は震災の影響で不通になり、昨年3月にBRTの運行が始まった。気仙沼駅から陸前高田まで約30分。国道45号線が気仙川を渡る手前で「奇跡の一本松」が見えてくるはずだが、見えたのは一本松の姿を遮るように立つ架橋工事のクレーンだった。作っているのは巨大なベルトコンベヤー。住宅地造成のために山を切り崩し、そこで出る大量の土を運搬して、平地部のかさ上げに使う。4本のベルトコンベヤーで1日に運べる土の量は2万立方メートル。工事のスピードアップと、工事車両による交通渋滞やリスクの軽減を図り、1年半でダンプカー200万台分、1千万立方メートルもの土を運ぶ計画だ。山の斜面にはベルトに直接土を落とす漏斗状の設備が出来ていた。この3月に稼働するというベルトコンベヤーの橋脚を見ながら、気仙川を渡ると、今度はまるで台形ピラミッドのような盛土がいくつか見えてきた。かさ上げ工事の安全確認のために試験的に盛られたものだという。平地部は8～10メートルの高さまでかさ上げし、その上に市街地が造成される。

震災発生から2年半余りが過ぎて、町の再建に向けた変化がやっと目に見えてきた。

「市の中心部だった高田地区はほとんどの建物が無くなってしまったために、他の被災地に比べれば復興は進んでいます。がれきの撤去・集積・処分は9割以上が終了しました。かさ上げや高台移転の造成などの膨大な工事は、人手不足もあって今始まったばかりというところで、これから1、2年で目に見えて変わっていくはずです。ただ、その工事がいつ終わるのか、仮設住宅での生活をいつまで続けなければいけないのか、という不安があります」

そう話すのは、陸前高田ライオンズクラブの金野秀会長。建設会社の社屋と自宅の両方を失いながら、がれき撤去や道路復旧などに携わってきた金野会長は、昨年6月に自力で自宅を再建し2年近く続いた仮設暮らしを終えた。仮設住宅からの集団移転が始まるのはまだ3年先と見込まれており、待ち切れずに自力で土地を確保して再建を目指す人も増えている。

変化は陸前高田ライオンズクラブにもあった。1年前は高田小学校の裏手にあった仮設事務局は、震災前からクラブの事務を担当していたライオン村上みき子の事業所内に移っていた。不動産業を営むライオン村上の㈲フェアリー企画は、金野会長の㈱金野建設と共同で中小企業基盤整備機構の支援を受け、昨年3月にプレハブ2階建ての仮設事務所を開設した。被災クラブの再建支援として震災から約3カ月後に設置されたプレハブは、現在は倉庫として使われている。

陸前高田ライオンズクラブは昨年11月24日、結成40周年式典を開催した。会場は震災前に例会場だったキャピタルホテル1000。被災したホテルは高台に移転して、式典に間に合わせるようにして開業に漕ぎ着けた。出席者はホテルの収容人数いっぱいの200人。秋田県・比内、奈良県・大和高田、大分県・豊後高田の三つの姉妹クラブだけで100人もの出席があった。取材に訪れたのはその3週間後で、金野会長には式典を無事終了して安堵した様子が見えた。もし震災がなければ、金野会長は第41代目の会長になっていたはずだった。震災当時の第3副会長だったライオン森克彦が津波の犠牲になり、代わりにこの節目の年の重責を担っている。

（写真左）昨年6月、国道45号線沿いにガソリンスタンドをオープンした菅原幹事。東京の大学を卒業した長男が9月に地元に戻り、後継者として共に働き始めた
（中）クラブの事務を担当するライオン村上。地震直後は手荷物とクラブの通帳の入った手提げ金庫を手に避難した。「あの時パソコンを持って出ればクラブの資料が残ったのに」と悔やむ
（右）40周年記念式典を無事に終え肩の荷を下ろした金野会長

今年度に入るに当たって、金野会長はクラブ会費の額を震災前と同じ月1万円に戻すことを提案。いつまでも甘えてばかりはいられないという金野会長に、全会員が賛同した。復興の道半ばで皆に余裕があるわけではないが、早く元通りのクラブに戻りたいという気持ちは同じだった。そうした中、陸前高田ライオンズクラブはこの1年間に1人の退会者を出すことなく、5人の新会員を迎えていた。昨年6月に3人、今年度に入ってからは2人が入会。いずれも40代の若い経営者で、クラブにとっては心強い後継者となる人材だ。

震災の直後に比べれば少なくなったが、陸前高田には各地のライオンズクラブが継続的な支援に訪れ、仮設住宅の入居者を励ます催しなどを行っている。昨年10月には、大阪府・堺美原ライオンズクラブが地元のイベントで陸前高田の物産を販売し、陸前高田ライオンズクラブのメンバー2人が会場に駆け付けた。販売収益と会場で集まった募金は支援金として陸前高田市に寄贈された。

1年前の取材の時は、支援のために地元産品を購入したいという問い合わせがあっても、水産業の事業再開が遅れて紹介出来る商品が少ないと聞いた。今は港が復旧し、わかめなどの工場もだいぶ再開して、生産態勢は回復しつつある。しかし販売する場所がないのが現状だ。市議会議員を務める菅原悟幹事は「復興に向けて、町の経済の活性化につながるような支援は非常にありがたい」と話している。（取材／河村智子）

被災クラブ追跡取材～宮城県・南三陸志津川ライオンズクラブ

全国からの支援を支えに復興へ

プロ野球・楽天ゴールデンイーグルスの日本シリーズ優勝は、本拠地仙台はもちろん、東北の被災地に大きな喜びをもたらした。南三陸町のさんさん商店街に設けられたパブリックビューイングの会場では、日本一の瞬間を共有しようとたくさんの人たちが画面を見つめた。不敗のエース田中将大投手がまさかの敗戦を喫したシリーズ第6戦の翌日、地元紙の朝刊には楽天イーグルス南三陸町応援協議会の会長を務めるライオン小坂克己と副会長のライオン藤谷廣司が頭を抱えてうなだれる姿が載った。そして迎えた最終戦。テレビの中継画面には、さんさん商店街の組合長を務めるライオン及川善祐とライオン山内正文の歓喜の笑顔が映し出された。

東日本大震災で被災した地域には次々に仮設商店街が開業したが、さんさん商店街は高い発信力で町外からの来客を集めている。しかし冬季には客足が減る。取材に訪れたのが12月半ばの平日だったこともあり、人影はまばらだった。

志津川湾に面した平地部では、陸前高田市と同じくかさ上げ工事が始まっていた。更地になった町にはたくさんの工事車両が行き交い、朝夕はひどい交通渋滞になるという。かさ上げの地域に現在も残っている建物は、町の防災対策庁舎と南三陸志津川ライオンズクラブの例会場だった高野会館ぐらい。その高野会館の隣、今は廃墟となったガソリンスタンドで、伊藤和長会長は1年前まで仮営業を続けていた。津波にのまれながらも、地下のタンクは無事だった。そして昨年3月、かさ上げ工事が始まるのを前に国道398号線沿いの土地を借りて、本設での開業に漕ぎ着けた。

南三陸志津川ライオンズクラブの事務局は現在、町役場が置かれたベイサイドアリーナに近い商工団地の一角にある。仮設事務局はクラブ再建支援で設置されたトレーラーハウス。震災からしばらくは、狭い室内で肩を寄せ合うように例会を開いていた。今は1年前に開業した南三陸プラザで例会を開き、トレーラーハウスには事務局機能だけを置く。その壁には支援に訪れたクラブのバナーが並んでいた。12年6月の50周年記念式典には支援活動を機につながった地区外の24クラブから280人が出席した。そうした縁で結ばれたクラブの周年行事への出席が、今年度前半だけで7回を数えた。50周年の会長を務めたライオン小坂を中心に、メンバー

が手分けして出席している。

「これまでの支援に対する感謝を伝えるためにも、出来るだけ出席させて頂いています。なかなか大変ではありますが、ちょうどよい息抜きにもなっていると思います」

と伊藤会長は話す。

昨年11月17日には、南三陸町への継続支援に取り組む愛知県・新城ライオンズクラブが南三陸町復興支援講演会を開催。南三陸町長のライオン佐藤仁と、震災時に防災団員として活動したライオン工藤泰彦、がれき処理など復旧・復興事業に携わってきたライオン藤谷、11・12年度クラブ会長を務めたライオン小坂の4人が講師として招かれた。南海トラフ地震に備えた危機管理のため、東日本大震災の教訓に学び、地域の防災・減災に生かそうという企画で、会場では南三陸の特産市と写真展も行われた。支援を寄せるクラブとの結びつきは、南三陸志津川ライオンズクラブが得た大きな財産だ。

クラブでは昨年3月に逝去により1人の退会があり、会員数35人になった。会員の9割が事業所と自宅の両方を失うという状況で、震災発生直後は誰もがクラブの存続は無理だと考えていた。ところが震災からこれまで、逝去以外の理由による退会者は出ていない。クラブの仲間に励まされ、全国からの支援に背中を押されて活動を続けてきた。国際会費免除の特別措置もあり、クラブ会費を震災前の3分の1程度に減額して何とか運営してきた。しかし伊藤会長の胸中には不安もある。

「いつまで現在の態勢で続けていけるのか、このまま会員を維持していけるのか。クラブの将来を考えると心配なところはあります」

震災から3年近くが経っても、本設で事業所を再開出来た会員はまだ3割程度で、ほとんどがプレハブや仮設事務所で営業している。たとえ仮設で仕事が安定していても、この先どのように事業を進められるかは不透明だ。自宅の再建もこれからで、集団移転先の宅地造成が終わるまでにはあと2年はかかる。

「仕事と生活が落ち着いてこその奉仕活動ですから、まだ全員が先行きに自信を持てるわけではありません。ですから、震災前と同じ会費負担に戻すのはまだ難しい状況です」

現在、クラブは寄せられた義援金を活用しながら、出来る限りのアクティビティを行っている。今年度上半期には仮設住宅にグラウンドゴルフ用具を寄贈した。仮設住宅の入居者のためにさまざまなレクリエーションが企画されるが、道具がないので参加出来ないという人たちがいるためだ。寄せられる義援金には、被災者の心のケアや青少年育成など使途を指定される場合もある。そんな時には会員が情報を持ち寄り、被災者のニーズに合った支援事業を企画している。

被災地で求められているのはどんな支援か。伊藤会長の答えはこうだ。

「南三陸を訪れて町を見てもらい、仮設商店街など町内で食事をし、買い物をしてもらうことが一番の支援になります」　（取材／河村智子）

（写真左）ライオン小坂が震災発生から10カ月目に移転開業した調剤薬局の一隅には楽天グッズがずらり
（中左）さんさん商店街の菓子店雄新堂の阿部雄一前会長
（中右）同じく商店街にある写真館佐良スタジオのライオン佐藤信一は、震災後の町の姿を写真に記録し続けている
（右）今年度「固い絆で奉仕の心 We Serve」のテーマを掲げる伊藤会長
（下）震災被害木を使った名札2種。キャラクターグッズ製作などで雇用促進と町の活性化を図るYES工房に依頼して作った

被災クラブ追跡取材～福島県・飯舘ライオンズクラブ

全村避難にも揺るがないクラブの固い絆

昨年12月半ば、福島市内の借り上げ住宅で避難生活を送る佐藤峯夫会長と菅野哲幹事を訪ね、飯舘ライオンズクラブの近況を聞いた。全村避難が続く飯舘村の村民約6千人の6割強は福島市内の借り上げ住宅や仮設住宅で生活している。クラブは避難から1年が過ぎた頃、福島市内でライオン高橋義治が営むゑびす庵を例会場に定例会を再開した。昨年度まで隔月ペースの開催だったが、今年度からは月1回開いている。昨年9月の例会には愛知県・名古屋城北ライオンズクラブのメンバー5人が訪問した。前年に続き2回目となった訪問は飯舘村支援に向けた情報収集が目的で、佐藤会長の案内で飯舘村や南相馬市などの被災状況の視察も行われた。

震災前、飯舘ライオンズクラブの例会は欠席がせいぜい1人か2人という高い出席率を誇っていた。今は毎回10人ほどが休み、集まるのは10数人。相馬市やいわき市、遠くは東京都内へ避難するメンバーもいて、全員が顔をそろえることは難しい。それでも、片道200キロの道のりを運転して来たり、泊まりがけで出席したりする会員もいる。

「やはり仲間なんですね。せめて月に1回ぐらいは仲間の顔を見たいし、情報交換をしたいという気持ちもあるでしょう」

と佐藤会長は言う。

現在の会員数は29人。昨年8月、震災後に村の教育長に就任したライオン八巻義徳が加わった。飯舘ライオンズクラブは1979年、当時の村長の呼び掛けで結成されたクラブだ。クラブ結成によって村で指導的役割を担うメンバーの結束を強め、地域づくりの要にしようとの考えがあった。その流れで、現職の菅野典雄村長を含め歴代の村長や教育長らがクラブに在籍してきた伝統がある。全村避難という厳しい状況にありながら、佐藤会長は会員減少の心配はしていない。メンバーは皆、避難先に拠点を移すなどしながら事業を軌道に乗せ

ているし、家族ぐるみの付き合いで強く結びついているからだ。

飯舘村は12年7月に、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の三つに分けられ、帰還困難区域以外には日中に限り戻ってよいことになった。これを受けて一部企業が事業を再開。それぞれの避難先から村内の事業所へ通勤し、従業員の安全管理を徹底しながら営業を行っている。

佐藤会長も避難先のアパートから40㌔離れた飯舘村へ通勤する。専務取締役を務める第3セクターの宿泊施設「きこり」が休業を余儀なくされ、避難後は村が組織した「いいたて全村見守り隊」の事務局長に就いた。350人の隊員は20ある行政区ごとにチームを作り、警察と連携しながら24時間3交替で見回りを行う。全村避難が決まった直後、インターネット上に「飯舘にお宝を探しに行こう」などと心ない書き込みが載った。数は多くはないが、見守り隊の活動が窃盗犯の検挙につながったこともある。隊の役割には防犯の他、避難せずに村に残る人たちの見守りもある。村内には寝たきりの高齢者を抱えていたり、避難生活になじめないなどの理由で自宅で生活を続ける人が十数人残っている。佐藤会長も日に1回以上はその家々を訪問し、声掛けを欠かさない。

飯舘村内で事業を再開・継続しているライオンたち。写真左から、臼石自動車整備工場のライオン高橋亘。二枚橋郵便局局長のライオン佐藤眞弘。全村避難後も引き続き村内で運営を続けてきた「いいたてホーム」の施設長ライオン三瓶政美。精密機械部品を製造するハヤシ製作所のライオン林和伯（写真はいずれも2012年12月撮影）

一方、菅野幹事は村に戻ることはほとんどない。福島市内に借りた畑の農作業に忙しくて暇がないのだと言う。村役場を退職後、農業に従事していた菅野幹事は、避難後すぐに1㌶の耕作放棄地を借りた。農家の人たちが避難先で家にこもることのないよう、活動の場を提供するためだ。今は15人ほどの村民と一緒に野菜作りに励む。収穫した野菜は皆で分け合う他、村の特別養護老人ホームに届けている。この冬収穫した白菜は千個以上。その一部で、毎年村でやっていたようにキムチを漬けた。また長野県小海町の支援を受けながら、村の郷土食、凍み餅作りも行っている。

事故発生から3年近くを経て、飯舘村内でこれまでに除染が終わったのは全体のわずか6％に過ぎない。いつ終わるとも知れない避難生活で、自然の恵みと先人の知恵に培われた村の伝統や文化が失われることに、菅野幹事は強い危機感を抱く。

「原発事故によって村の土地がなくなるわけではない。失われていくのは人の営みや文化です。何とかして村の暮らしを次の世代へとつなげていきたい」

佐藤会長には震災発生の4日後に生まれた初孫がいる。同居していた次男夫婦と孫は埼玉県内に避難した。数えるほどしか顔を合わせられないまま、この3月で孫は3歳になる。

「震災で亡くなった方のことを考えれば不満は言っていられない。でも、何でこんな目に合うのかなあ」

孫の話になると、佐藤会長は切ない思いを漏らした。

「放射能が無くなりさえすればいい。ただ残念なのは自分たちが年を取っていくことです。毎年100人ぐらいの村民が避難先で亡くなっています。村の再興は次世代に託すことになるでしょうが、行く末を見極めるまでは生きなければならないと思っています」

苦悩を抱えながら、飯舘のライオンたちは辛抱強く帰村の日を待ち望んでいる。

（取材／河村智子）

被災地のライオンズは今

宮城県・山元ライオンズ

ホッキ貝といちごの二枚看板
宮城県東南端のおいしい町

山元町は宮城県東南端、東は太平洋に面した直線的な砂丘海岸が続き、南は福島県新地町に接している。東日本大震災では海岸沿いの地域が壊滅的な被害を受け、町民635人の命が失われた。常磐線が海寄りを走っていたため、宅地や商業地の被害も大きく、浸水域の人口は約54％、町の半数以上の人が被災した。

山元ライオンズ（斎藤慶治会長／16人）は3月12日にスポンサー・クラブの亘理ライオンズと一緒に旅行例会を計画していた。が、もちろんそれどころではない。メンバー同士の連絡さえ、取れない状態となった。

震災後、初めて会員たちが顔を合わせたのは4月1日になってからだった。東京と岐阜から3人のライオン（藤村貞夫／東京三軒茶屋ライオンズ、宮部一弘／岐阜県・関ライオンズ、小野木巧／岐阜あかつきライオンズ）が、支援物資を持って駆け付けてくれたのだ。この時、会員たちが集まったのは例会場の「レストランわか菜（渡邉一雄）」だったが、渡邉は奥の座敷を被災者に開放しており、30人程が暮らしていた。

3人と合流した会員たちは、彼らのトラックを誘導して避難所を回り、支援物資を配布した。驚いたことに、物資が入った段ボールには北海道から沖縄まで、全国のライオンズの名前が書かれていた。3人は、災害救援などを目的としたライオンズ関係者のネットワーク「ライオンネット」で物資を集め、その代表として山元入りしていたのだ。

カフェ地球村への支援

「ライオンネット」の支援物資配布を機に、山元ライオンズは例会を再開。更に被災地のクラブとして、支援の手が届きにくい人たちや施設を対象にした活動に取り組み始めた。その一つ「工房地球村」は社会福祉協議会が運営する共同作業所だったが、震災後は仕事が3分の1に激減していた。

そんな中、地球村を震災前の状態に戻すだけではなく、それ以上に発展させようと、カフェ・プロジェクトが浮上。支援に来ていた精神科医師や、交代で仕事を手伝ってくれた全国の社協スタッフ、また東京日本橋、東京町田クレイン両ライオンズクラブらの協力で、作業所脇に「カフェ地球村」を作ることになった。

332・C地区が主催した「アラート・フォーラム」の会場で、東京日本橋ライオンズの屋代誠一からこの話を聞いた山元ライオンズは、その後、地球村を訪ねて実情をヒアリング。聞くと、難民を助ける会からトレーラーハウスを寄贈してもらえるが、障害を持つ人たちやお年寄りが安心して働いたり利用したりするには、スロープ付きのウッドデッキが必要とのことだった。

そこで、クラブとして支援することを決め、当時の佐藤義則地区ガバナーに相談しながら、LCIF交付金を申請。東

日本大震災復興支援対策本部の承認を得て、約200万円の交付金で土地の整地とウッドデッキ及びスロープ等の付帯工事を行った。

「カフェ地球村」は現在、障害を持つ方が働く場としてだけではなく、「工房地球村」で作った自主製品の販売拠点にもなっている。また、近くに仮設団地があることから、被災した方たちの憩いの場としても親しまれ、にぎわいを見せている。

ホッキ貝といちご

山元町の特産はホッキ貝といちご。山元のホッキ貝は大ぶりで甘みも強い。12月から4月にかけては、町内の多くの家で、ホッキ貝をふんだんに使った炊き込みご飯「ホッキ飯」が作られる。学校給食に出るほどで、農林水産省の「郷土料理百選」にも選定されている。

一方、いちごは町の基幹産業になっており、震災前は129軒の農家があったが、無事だったのは7軒のみ。まさに壊滅状態だった。

再建するには多額の資金が必要で、多くの人は途方に暮れるだけだった。そこで、岩佐隆（写真右下）は他のいちご農家に呼び掛け、会社組織で栽培を始めることにした。そして震災の3カ後には山元いちご農園㈱を設立。9月にハウスを建て、10月から植え付けを始めた。急いだのは、生産者が離れるのを防ぐためだった。また、雇用の創出も急務。創業メンバーの4人は、自分たちの手で産地としての山元を守り、いちごの再生を町の復興に結び付けるという強い思いを持っていた。

レストランわか菜のホッキ飯（1月から4月の限定メニュー）

現在、社員は27人。8棟のハウスでいちごを栽培し、販路開拓にも努めている。また、2月には研修施設もオープンさせた。ここでいちご生産の担い手を育てると共に、交流人口を増やして情報発信し、年間を通じて観光客に来てもらえるような拠点施設にしたいという。

2月から6月中旬までは、ハウスでいちご狩りが出来る。実際に訪問して、山元のいちごを口にしてみて頂きたい。

（取材／鈴木秀晃）

執行役員だより

一人が一人の会員を増やそう

■国際第2副会長
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

年明け1月6日から記録的な大寒波がアメリカ・シカゴを襲いました。気温は氷点下20度を下回り、吹き抜ける風で体感温度は氷点下40～50度という状況下、オークブルックの国際本部ではGLT・GMT会則地域リーダー会議を皮切りに、執行委員会、長期計画委員会、視力ファースト諮問委員会、特別委員会等々の国際会議が立て続けに開かれました。建物の外は極寒状態ではありますが、会議室では至極ホットなディスカッションが行われました。

朝から晩までエネルギッシュに意見を戦わせるのはある意味、体力勝負です。多くの難題を一つひとつこなしていくためには神経も使いますし、時差ボケも重なって疲労は極限に高まります。そんな時は、ワイシャツ1枚で屋外へ出て凍てつく寒さに身をさらします。すると3分間で頭はスッキリ、体もカチカチとなり、再び会議に集中することが出来、この大寒波も私には味方になりました。

2月8～11日に実施された334-E地区の第39回日本フィリピン合同医療奉仕に参加し、診察を行う山田副会長

今回審議した議題の多くは、2月末にカリフォルニア州サンディエゴで開催される国際理事会で決定されるものです。ライオンズは100年目を迎えるに当たり、大きな変化を遂げようとしております。過去の良いものは残し、変えるべきところは徹底的に改革していく方針は、まさしく世界のリーダーの進むべき道であると感じます。

今回の会議では、ジョー・プレストン次期国際会長の方針も発表されました。これはご本人が地区ガバナー・エレクト・セミナーで明らかにされるため、ここに紹介することは出来ませんが、我々が最も必要とする方向を示したすばらしい指針であると感心しております。

パーマー国際会長も意気揚々と、最も力を入れている会員増強、特に女性会員や若い会員の増強を訴えられました。夢の実現に向けて心血を注いでおられ、特に、日本公式訪問の際に日本の会員と交わされた会員増強の約束、「アイ・プロミス」に大いに期待されています。ご存じの通り、日本に対しては家族会員増強パイロット・プログラムが打ち出されており、本部の期待は大であります。

我々は期待に応えるべく、「一人が一人の会員を増やそう＝ワンメンバー・ワンパーソン」を合言葉に、全国ガバナー連絡会において、本年度中に主に家族会員の増強を徹底的に行うことを決定し、団結して推し進めているわけです。

既に単一クラブで会員3倍を達成しているクラブも出てきております。「ワンメンバー・ワンパーソン」を実行に移せば、日本の会員数は20万人を超えて世界第2のライオンズ大国になることが可能であります。是非とも一人ひとりがこのすばらしい夢のある倍増計画に参加して頂き、本年度末には日本の力を示そうではありませんか。

残された時間は、4カ月です。

実行に移すのは、今です。

ライオンズの災害対応を考えるアラート・フォーラム

1月18日、兵庫県神戸市の神戸ポートピアホテルで、335・A地区（兵庫県／福田恵太地区ガバナー）主催の「アラート・フォーラム in 神戸」が開かれた。2012年9月に332・C地区（宮城県）の主催で実施された「ライオンズ・オールジャパン・アラート・フォーラム」を引き継ぐ形で行われたもので、全国23地区から64クラブ85人が参加、335・A地区を含む約170人の会員が、緊急時におけるライオンズの対応について意見を交換した。フォーラムはまず兵庫県防災監の杉本明文氏が「兵庫の防災・減災対策」と題し、近い将来必ず起こると言われる南海トラフ巨大地震対策や防災のための関西広域連合などについて基調講演。その後、小グループに分かれて「災害発生時にライオンズクラブとして何が出来るか」「それを実行するためには何が必要か」をテーマに話し合いを持った。

グループワークでは多くのテーブルで「情報」というキーワードが出され、それを収集するだけではなく、いかに共有するかが重要だとされた。また、緊急時に迅速な行動が出来るよう、クラブや地区でアラート組織を構築することや、行政、社会福祉協議会、NPOとの連携の必要性などが課題として挙げられた。

ライオンズ世界ランチ・リレーに参加しよう

国際協会は4月を「ファミリー&フレンド月間」として、家族や友人を招いて共に奉仕したり、楽しんだりする行事を企画するよう呼び掛けている。その一環として4月4日に行われるのが「ライオンズ世界ランチ・リレー」。4日正午にニュージーランドで昼食会をスタートし、1時間後に正午を迎える国へ次々にリレーして、地球をひと回り24時間続く昼食会にしようというユニークな企画だ。ランチに招くのは会員の家族や友人。昼食を共にしながら、クラブの奉仕や会員であることの喜びを語り合う機会を持つ。バリー・パーマー国際会長は「4月4日は私の妻アンの70回目の誕生日でもあります。皆さんのクラブでも昼食会を企画して、私と一緒にこの日を特別な一日にしてください」と述べて参加を求めている。このランチ・リレーでは「最多のファミリー&フレンド」「最大のフード・ドライブ」「最良のランチ・テーマ」という三つのカテゴリーでコンテストも行われる。

ランチ・リレーのオンライン登録は、協会ウェブサイト（www.lionsclubs.org）ホーム右上のロゴをクリックし「ライオンズ世界ランチ・リレー」のページで行う。コンテスト参加は同ページで応募用紙をダウンロードし応募する。

地区ガバナー就任に向けてGLTエリア研修

2月1～2日、東京・晴海のホテルマリナーズコート東京において、国際協会が設定する第1副地区ガバナーの研修の一つであるGLTエリア研修が行われた。第1副地区ガバナーは昨年11月に開かれた複合地区研修とオンライン事前課題の提出を経て今回の研修を受講し、更にトロント国際大会直前の地区ガバナー・エレクト・セミナーを修了して地区ガバナーに就任することになる。エリア研修の講師を務めたのは地区ガバナー・エレクト・セミナーの日本のグループリーダーを務める後藤隆一GLT会則地域副リーダーと大野元昭（東日本担当）、鈴木誓男（西日本担当）両GLTエリアリーダー。

1日目は地区を成功に導くためのチーム作りや、未来の指導者を見いだし育てる指導力育成をテーマに、2日目には高田順一GMTエリアリーダー（西日本担当）による会員増強をテーマにしたセッションが行われ、グループ討議を交えながら進められた。

同会場では同時進行で日本のGMTが企画した第2副地区ガバナー研修も開催され、山田實紘国際第2副会長、武久一郎、清水英徳両国際理事も臨席して、会員増強をテーマに研修が行われた。

333-C地区「美しい村」を学ぼうCEP研修会

【平野寛明333-C地区情報委員長／ライオン誌サポーター】物事を比較し、認識し、対策を練る。当然の思考経路だと思う。では地区やクラブで、そういった比較手法を採用して問題に対応していると言えるだろうか。恐らくそう出来ていれば、会員減少を憂うどこのクラブでも今抱えている問題はそれほど大きくはなっていないだろう。現状では、クラブの活性化を考えても徒手空拳とならざるを得ないのである。そうした問題に対して国際協会が用意している武器が「クラブ向上プロセス（CEP）」なのだが、一般会員にCEPと言っても恐らくはピンとこない。そこでその一部なりとも体験してもらおうと、1月18日カンデオホテルズ千葉において「美しい村」を学ぼう研修会が開かれた。正木守地区ガバナーが掲げる「美しい村」は理想のクラブを指す。地区GLTチームが企画し、国

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン誌』本部版より）

フランス

芸術を愛するライオンズ

豪奢なリュクサンブール宮殿に著名な作家や読書愛好家が集った。開かれたのは2012年ライオンズ国家文学賞の授与式。今年の賞は新人作家シャンタル・フォレに贈られた。受賞作は年老いた両親に対する兄弟の感情を描いた感動的な年代記だ。

フランスのライオンズは芸術を奨励し支持する活動に力を入れる。「我々は学究的環境や教育、文化面において生まれる可能性が育つように手助けしている。この文学賞は我々の文化に対する献身を証明すると共に、我々の人道主義の概念を伝えるきっかけにもなる」

とライオンドミニク・マレーは語る。

リュクサンブール宮殿はフランス議会が開かれる場所だ。アラン・グルナック上院議員は「ライオンズは読書キャンペーンに参加して出版業界にも貢献をし、作家の支援もしている。私はこうして人類の役に立つ活動をしているクラブの一員であることをうれしく思う」と述べた。

南アフリカ

我らのマスコット

「メルビン」は人々が集まるところへやってくる。お祭りやビンゴ大会、ウォーキング・イベント、ゴルフ大会や車椅子レースなどだ。彼はフェイスブックで活動しており、友達の数は3千人余りに上る。毛むくじゃらの身体で熱烈にライオンズのPRに奔走するメルビン。彼の誕生日は1月13日。協会創設者メルビン・ジョーンズの誕生日と同じだ。

メルビンの生みの親は、元教師で今はライオンズの活動に情熱を注ぐライオンカール・バンブラー。彼の妻もメンバーで、12歳になる娘はレオクラブの一員だ。9歳の息子もレオになる日を心待ちにしている。バンブラーは2006年にジョージ ライオンズクラブに入会、3年後にエデン ライオンズクラブのチャーター・メンバーとなった。彼がメルビンのことを思い付いたのはそれからすぐだった。「この国のライオンでエデン ライオンズクラブを知らない者はいない。それに多くの南アフリカ人がテレビやラジオ、新聞を通じてメルビンに会う機会があるんだ」

今では他クラブにスウェルビン、レックス、ムファサの「兄弟」が出来、ライオンバンブラーは更に野心を燃やす。「メルビンを協会公式マスコットとして認めてもらいたいんだ。別に特別なキャラクターである必要はない。ただ、ライオンとしてでいいから」

際協会主催の上位リーダーシップ研究会を受講した吉原稔貴第2副地区ガバナーを講師に、地区内外から約150人の参加者を得て行われた。

研修会はライオン吉原の講義の合間にワークショップ並びに討議を挟んで進んだ。講義のテーマは「いいクラブ」と「悪いクラブ」の特徴とそうなった理由。ワークショップでは、CEPのクラブ評価アンケート並びに地域奉仕ニーズ調査に各自が回答した上での討議となった。恐らく参加者の大多数がCEPに無理解であったろう。しかし今回、各自がアンケートに回答しながら自問自答し、他者との比較を行い、どうすればいいのかを考えたはずである。この芽はすぐには芽吹かないかもしれない。しかし地域に対して責任を持つ奉仕団体としてライオンズクラブがある。少なくとも「今、動き出そう」と思う端緒にはなったのではないだろうか。

LCIF献金サービス課のEメール・アドレス変更

LCIF献金報告用紙や献金に関する問い合わせの送付先として使用されるLCIF献金サービス課のEメール・アドレス（日本語対応）が変更された。新しい送付先は左記の通り。

新Eメール：donorassistance@lionsclubs.org

ライオン誌日本語版事務所発行の新書『LCIF早分かり』29ページ及び45ページ記載の連絡先は変更前のEメール・アドレスなので注意されたい。

ライオン誌日本語版ウェブマガジンの活用を

ライオン誌ではオンラインの情報発信も行っている。ライオン誌日本語版ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）では本誌バックナンバーがEブックで閲覧出来る他、統計データや資料を掲載。クラブ活動の写真とリポート投稿のコーナーもある。またフェイスブックのページ（www.facebook.bom/LION.MAG.JP）でもさまざまな情報を発信。今月号30～31ページ「炊き出しグランプリ」の投票も、フェイスブック上で受け付けている。誌面では紹介しきれなかった炊き出し料理のアピールポイントも掲載しているので、ぜひ投票をお願いしたい。

会議録

■**第6回ライオン誌日本語版委員会**（1月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：武久一郎、清水英徳両国際理事、大熊泰雄、茂尾実、佐藤義則、小西宗仁、大村行範、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、森本克幸議長、荘英隆、小柴登司〈オンライン〉両ITアドバイザー）①ライオン誌日本語版事務所の運営②2014年1月号（9万9400部発行）出来③14年2月号記事内容の確認④3月号以降台割（案）と主要記事予定⑤ライオン誌出版物⑥その他

■**第6回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（1月10日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：佐藤精一郎、伊藤信賢、若木幹、小板橋欽也、柳原宏行、森本克幸、渡部雅文、鬼塚俊郎各議長、武久一郎、清水英徳両国際理事、山浦晟暉GMT会則地域副リーダー）【第I部：議長協議】①ライオン誌日本語版委員会出席報告②国際委員会事務局を日本ライオンズ連絡事務所内に設置する件③第53回OSEALフォーラム（韓国・仁川）④パーマー国際会長公式訪問収支報告⑤ボーイスカウト・ジャンボリーに関してのお願い（336複合地区）⑥トロント国際大会DGEセミナー参加ツアーの設定⑦GMT関係⑧日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑨各種委員会報告：開催順⑩その他

解散クラブ

1月＝神奈川県・横浜北／秋田県・雄物川／大分県・臼杵

訃報

■**元国際会長**

ライオン ステン・アケスタム（スウェーデン）12月18日死去、89歳。1986-87年度国際会長として保健分野、特に糖尿病教育の重要性を提唱。ライオンズクエストの拡張にも積極的に取り組んだ。また男性に限られていた会員資格を改めて女性に門戸を開くことを支持し、その任期を締めくくった87年の国際大会で国際会則改正案が可決された。

■**元国際役員**

ライオン 山田純郎（石川県・美川）1月8日死去。82歳。2002年度334-D地区ガバナー。

ライオン 井上幸一（栃木県・黒磯）1月29日死去。66歳。2007年度333-B地区ガバナー。献眼。

■**献眼者**

8月＝ライオン 溝渕宏（高知鷹城）12月＝ライオン 今泉大助（茨城県・土浦環）／ライオン 芹澤吉政（静岡県・小山）／ライオン 横田明彦（高知県・土佐）／ライオン 戸田功助（熊本県・城南）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

GMT／GLT通信

会員倍増計画の達成に向け 日本GMTが示した指針

1月21日、東京・日比谷の松本楼で複合地区及び地区GMTコーディネーター会議が開催された。

会員増強を専門分野としてクラブの支援に当たるグローバル会員増強チーム（GMT）は今年度、主に家族会員の増加による会員倍増計画の推進に力を注いでいる。この日の会議では山浦晟暉GMT会則地域副リーダーが「ここで古い体質から脱皮し、新しい時代に合った奉仕団体として思い切った改革を考え、若者や女性が入りやすい魅力ある団体に変身しなければ将来はありません」と述べて、家族会員及び賛助会員の増強を図るための指針を提示し説明を行った。

【家族会員による増強】

10月の国際理事会は日本向けの家族会員パイロット・プログラムの導入を決め、家族会員の増加で会員倍増を図ろうという計画を後押ししている。ただ、クラブによっては家族会員の義務や権利の取り扱いが障害になっている例があり、日本GMTは全国で足並みをそろえて取り組めるよう、次のような指針を打ち出した。

・家族会員は正会員であるが必ずしも例会に出席する必要はない。ただし可能な限り奉仕事業に参加することが望ましい

・例会に出席した会員が他の家族会員にクラブ活動情報を提供することで出席扱いとする

・家族会員の年会費は国際会費（半額免除で21・5ドル）のみとし、地区費・複合地区費他の費用は原則免除とすることを全国統一ルールとする。地区費・複合地区費の免除は、今年度はガバナー方針として前倒しで施行し、地区あるいは複合地区年次大会に地区ガバナーあるいは協議会議長提案として提出する

【賛助会員による増強】

既存会員の知人や友人、取引先などで、ライオンズクラブの基本精神をよく理解し、クラブを支援してくれる人物を賛助会員として招請することを推奨する。賛助会員には国際会費、地区及び複合地区会費を収める義務があり、クラブでの投票権を有するが、役職に立候補する権利や地区・複合地区・国際の大会の代議員になる権利は持たない。

クラブ活動に参加する時間的な余裕はないが可能な限りのアクティビティ参加やドネーションに協力出来る人物の招請や、経済的または健康上の理由で退会を希望する会員に回復までの間は賛助会員としてクラブに留まってもらい退会防止を図ることで、会員増強につなげていく。

◆

会議では複合地区別に分かれてディスカッションも行われ、各地区における進捗状況などが話し合われた。

実際に会員増強に取り組むのは各単一クラブだ。日本GMTでは、これらの指針をクラブ・レベルにまで浸透させ理解してもらうために、各地区でクラブ会長会や、リジョン・ゾーン単位の会員増強倍増セミナーを開催するよう働き掛けている。

LCIF FILE

Foundation Impact / LCIF Development Update

Foundation Impact

台風ハイヤンが直撃した フィリピンへ迅速な援助活動

台風30号（国際名：ハイヤン／フィリピン名：ヨランダ）が、フィリピンを直撃した時の恐怖、そしてその後に味わった無力感や絶望感は、その場にいた者でないと絶対に理解出来ない、と生存者は語る。

「被害を受けた地域、特に最大被災地レイテ島タクロバンの状況は悲惨で非常に痛ましいものです。学校や教会、ショッピング・センター、政府庁舎など、ありとあらゆる建物が破壊されてしまいました。タクロバンはまさに壊滅状態です。まるまる全滅した村落もありました。その状況を表す言葉が全く思い浮かびません」

エム・L・アング301複合地区ガバナー協議会議長は、台風ハイヤン災害委員会の委員として、フィリピンで最も被害の大きかった地域を訪問した後にこう話した。

台風30号は11月8日、フィリピン中部のサマール島に上陸し、その後、レイテ島、パナイ島と、フィリピン中部ヴィサヤ諸島を横断して南シナ海へ抜けた。アメリカの合同台風警報センターは、この時点の最大風速が87・5メートル、最大瞬間風速は105メートルだったとしている。

この台風による被害の第一報がフィリピンから入ってくると、LCIFはまず災害援助金として3万ドルと大災害援助金10万ドルを交付。日本を始めとする近隣諸国のライオンズや世界からの献金も、すぐに50万ドルに達した。更に1カ月後には、献金は100万ドルを超え、テント、水のろ過装置、缶詰などの支援物資を含む援助活動を実施した。

「私は最も被害の大きかった地域を訪問して、被災者のニーズの把握に努めました。短期的には食料、水、医薬品が必要でした。その後は、がれきの撤去、更には家の再建などの復興を手伝う長期的な援助が必要です。仮設のテントや食料の缶詰は、ハイヤンによって人生を打ち砕かれた被災者の方が、少しずつ生活を立て直してゆくための大きな助けとなります。LCIFのおかげで地域のライオンズは、大規模災害で被災した人たちが困難を乗り越えるための手助けをすることが出来ます」

と、アング議長は語る。

パナイ島のダマンガス港に到着した救援物資

フィリピンには380クラブ、約1万2600人の会員がいる。そのうちの4クラブは、被害の大きかった地域の一つセブ州の州都セブ市に、また1クラブは最大の被災地となったタクロバン市にある。暴風が去った直後から、これらの地域のライオンズは救援活動を始めた。

「私は台風直後に、世界のライオンズが実施した寛大な支援を誇りに思います」

ウェイン・マデンLCIF理事長は話す。

「私はフィリピンを訪問し、台風の被災地を視察しました。建物などは大きな被害を受けていましたが、ライオンズの精神は影響を受けていませんでした。このような状況で、ライオンズは人を思いやる気持ちを強く持ち、人道主義的ニーズへの献身を示しながら、奉仕活動を行うのです」

台風30号被害に対する救援活動の詳細は、LCIF公式サイトに紹介されている。フィリピンのライオンズが撮影した台風30号の写真を見るには、ツイッターで#LionsReliefを検索。

（アリー・ストライカー）

LCIF Development Update

第10回LCIFスタディ・ツアー

LCIF交付金事業を視察する恒例のツアーが、1月12日から16日まで、カンボジアで実施されました。10回目を迎えた今回のツアーには、北は福島から南は沖縄まで33人が参加、シェムリアップやバッタンバンで、六つの施設を見学しました。

①孤児の寄宿舎＝岡山旭ライオンズクラブ、岡山後楽ライオンズクラブ

シェムリアップから西へバスで20分、NPOハート・オブ・ゴールドが運営しており、代表者は有森裕子氏。小学生以下の児童から高校生まで、男子6人、女子12人の子どもたちが入っています。美容師、医師、日本語ガイド、客室乗務員、コックなど、はっきりと将来の夢を話し、全員が日本語で恥ずかしがらずにあいさつをしたので、驚きました。

②トラキエット小学校＝愛知県・幸田ライオンズクラブ

昨年4月号のライオン誌で大きく取り上げられていましたが、校舎改修（09年）と図書館建設（11年）の二つの事業を実施。幸田ライオンズクラブのメンバーは毎年学校を訪問して、音楽を教えたり、習字を教えたり、アンコールワットへの遠足に連れて行ったり、ソフト面でも多岐にわたる教育支援を行っています。

③女性のための裁縫の職業訓練所＝神奈川県・南足柄ライオンズクラブ

施設はベンメリア遺跡の手前にあり、18～23歳の女性19人が、先生の指導の下、ミシンを踏んでいました。カンボジアでは手に職をつけることは大事な生活手段になります。併設して、子どもたちに日本語と英語の語学教育をする小さな教室があり、子どもたちが熱心に勉強をしていました。外国語を学ぶことも、重要な生活手段になってきます。

④タックレイ小学校＝熊本ライオンズクラブ

ベンメリア遺跡の近くにあり、シェムリアップからは約1時間30分。道路から、校舎側面に書かれた「KUMAMOTO LIONS CLUB」の文字が良く見えます。校舎の前で何人かの児童にお米を配っていたので聞いてみると、貧しい家庭の子どもたちにお米の配給をしてるとのことでした。

⑤オータキ小学校＝福井ライオンズクラブ

カンボジア第2の都市バッタンバンの手前にあり、シェムリアップからは車で約3時間。福井ライオンズクラブの野坂鐵郎会長に同行頂きました。カウンターパートは、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会（SVA）で、私の所属する東京文京ライオンズクラブも約20年前にSVAの協力を仰ぎ、バッタンバン州バンアンピル村に小学校の校舎を建設しています。福井ライオンズクラブが寄贈する図書館はほぼ完成し、館内には図書が整然と並べられ、既に児童や村人が利用していました。2月8日の引き渡し式には、福井のテレビ局が取材に来るそうです。

⑥HIV／エイズ専用助産施設＝沖縄県・八重山ライオンズクラブ、宮古ライオンズクラブ、石川ライオンズクラブ

この施設も昨年4月号で取り上げられていました。視察には八重山ライオンズクラブの識名安信元337・D地区ガバナーと前里和江、宮古ライオンズクラブの高里俊夫が同行し、案内役を務めて頂きました。ベッドは12台あり、見学した日は7人の妊産婦と6人の赤ちゃんがいました。エイズ患者だけでなく、極貧家庭の妊産婦にも解放し、月に55～75人が利用しているそうで、効率良く運用されていました。

助産施設の名称は「慈愛の母結（ゆい）沖縄」。結とは、沖縄で共同、協働の意味があります。施設の完成式の日に生まれた男の子には「YUI」のミドルネームが名付けられたそうです。沖縄の慈愛の心が生きていました。

（野口正二郎）

ライオン誌THEME企画

ライオンズ炊き出しグランプリ
投票募集

被災した人たちを元気付ける炊き出し。各クラブ自慢の味がある中で
「最も食べてみたい炊き出し料理」を決める「ライオンズ炊き出しグランプリ」を開催します。
グランプリは読者とライオン誌委員の投票により決定します。

投票方法

期間中、ライオン誌のフェイスブックページ(https://www.facebook.com/LION.MAG.JP)に、エントリーされた料理を掲載します。「食べてみたい炊き出し料理」に「いいね!」をしてください。また、Eメール、FAXでも投票を受け付けています。下記の宛て先に「食べてみたい炊き出し料理の番号」を明記の上、お送りください。

Eメール:edit@thelion.jp FAX:03-3546-2630 締切は3月31日(月)

1 7点盛り海鮮ささえ愛丼

香川県
多度津ライオンズクラブ

震災間もなくの被災地でなかなか食べることの出来なかった新鮮な生魚を使用した海鮮丼

2 大船渡漁港直送まぐろ丼

岩手県
大東岩手ライオンズクラブ

調理師免許所有者が特製タレで漬け込んだマグロに刻みネギとワサビを添えた贅沢な一品

3 地域の味 山形名物芋煮

山形県
天童舞鶴ライオンズクラブ

地域の行事として慣れ親しまれている芋煮会の味を被災地で再現！　震災後すぐの炊き出しを実施

4 明石名物 玉子焼き

兵庫県
明石魚住ライオンズクラブ

明石産のブランド・タコと北海道産昆布だしを使用するなど、材料にもこだわりを見せる自慢の一品

5 北海道名物 味付きジンギスカン

北海道
美唄ライオンズクラブ

秘伝のたれに一昼夜以上漬け込んだ子羊の肉を焼いて食べる北海道名物味付きジンギスカン

6 醤油が香る 山形内陸風芋煮

山形県
長井ライオンズクラブ

長井産里芋に米沢牛と舞茸をたっぷり入れ、醤油で味付けした山形のおかあさんの味

7 生産量日本一の栗を使った栗おこわ

茨城県
友部ライオンズクラブ

大粒の栗をびっくりするほど大量に使った栗おこわ。全国一の栗産地・茨城県笠間地方の栗を使った一品

8 栄養満点打ち込みうどん

香川県
丸亀京極ライオンズクラブ

ゴボウ、ナス、里芋など具だくさんの打ち込みうどん。夏にはドジョウを入れて栄養満点

9 仙台黒毛和牛バーベキュー

宮城県
仙台青葉ライオンズクラブ

炭火で豪快に焼き上げると辺り一面にいい香りが漂う。仙台黒毛和牛の本格バーベキュー

10 約2週間続けた炊き出しの豚汁

新潟県
柏崎日本海ライオンズクラブ

大きな具材のうまみを寸胴鍋に入れたたっぷりの味噌汁で引き出し、心をこめた味

11 青森の季節料理カニ汁

青森県
弘前東奥ライオンズクラブ

津軽の花見に欠かせないカニ汁。陸奥湾直送のトゲクリカニのカニみそで作るだしがおいしい

12 富山名産シロエビのかき揚げうどん

富山県
となみセントラルライオンズクラブ

富山湾の宝石と呼ばれるシロエビ。これを熱々のかき揚げにして乗せたあっさり味の絶品うどん

CLUB REPORT
クラブ・リポート

337-A地区

福岡県・直方ライオンズクラブ

直方と小竹を書道の町に「第5回新春書初め大会」開催

1月12日、直方ライオンズクラブ（金子千代会長／54人）は直方市中央公民館で「新春書初め大会」を実施した。参加したのは直方市及び小竹町の小学校3～6年生と中学生合わせて176人。2010年に50周年記念事業として実施して以降、毎年行っているこの大会も今年で5回目を迎える。

午前は小学生。お手本を見ながら慎重に筆を進めていく。当日に配布される半紙の端には色が付けられていて、この日書いたものしか提出出来ない仕組みになっている。

午後は今年新設された中学生の部。会場は子どもたちの集中でピリッとした空気になる。中学生にもなると大人顔負けの達筆な書が続々登場。クラブのメンバーも出来上がった作品を見て「うまいもんだなぁ」と感心しきりだった。

この事業は「直方市と小竹町を書道の町にしたい」という思いから始まった。携帯電話、パソコンの普及により、字を書く機会が減っている。だが、書き初めは日本古来の文化。それを絶やしたくないという思いもあった。そこでクラブは市の教育委員会に相談。高齢者の生きがいづくりの一環として2007年から開かれている直方鞍手はつらつ塾の習字ボランティア・コーディネーターが協力してくれることになり、第1回目は80

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。
ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。
送付先は57ページ下。

人くらいの小学生が参加してくれた。

回を重ねるにつれ、参加する小学生が増えてきた。毎年1月の第2日曜日に実施しているため、その日を空けて楽しみにしてくれる子もいる。徐々に目標である書道の町に近付きつつある。クラブではそう感じていた。そんな中、小学校を卒業した子から「毎年参加してきたので卒業してしまって寂しい。中学生の大会もやってほしい」という声が届いた。そこでクラブでは小学生だけではなく、中学生の部の開催も決定。ゆくゆくは高校生や一般の部の開催も考えている。

この書き初め大会の作品は大会翌週の週末にイオンモール直方のイオンホールで展示される。これはライオンズがお金を出して実施するだけの事業にするのではなく、市民参加型のものにしようと考えているからだ。また、入賞作品に対する表彰式もイオンモール直方で開催。ここでは地元、鞍手高校書道部の面々が書道パフォーマンスで会場を湧かせた。これを見たことがきっかけで鞍手高校に入り、書道部に入部した子どももいる。直方ライオンズクラブの取り組みは着実に浸透している。今後、更に多くの人が書道に親しめるよう、クラブでは継続して取り組んでいく。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

大会から1週間後の1月19日にはイオンモール直方で表彰式が開催され、鞍手高校書道部が書道パフォーマンスを披露（撮影：直方ライオンズクラブ）

336-D地区

島根県・出雲南ライオンズクラブ

第22回出雲南LC旗争奪ゲートボール大会開催

2013年11月30日、出雲南ライオンズクラブ（陰山洋二会長／35人）は第22回出雲南LC旗争奪ゲートボール大会を木造の出雲ドームで開催した。

ゲートボールは相手に対する駆け引きが重要となる種目で、オリンピック種目のカーリングに似た競技だ。

出雲地方はゲートボールが盛んで、この大会を楽しみにしている人も多い。今大会では、高校生から94歳の高齢者までが参加した。まさに世代間の交流になっている大会だと思う。

大会会長による開会のあいさつに続き、前年度優勝の出雲西高校の生徒による選手宣誓。代表者3人による始球式と続き、いよいよ大会が始まる。参加チームは、出雲市内21地区62チーム370人だ。地区別チーム総当たりで日々磨いた技を競った。各チームが熱戦を繰り広げたが、さすがの若さ。昨年に続き出雲西高校チームの優勝となった。

閉会式では各賞の表彰式が行われた。それに続き、抽選会もあり、参加の皆さんは晩秋の一日を楽しまれたことと思う。

当クラブでは会場で献眼登録の呼び掛けも実施。成果も上がった。

今年度もゲートボール大会が無事に終えられたことに安堵している。ご参加頂いた選手の皆様、ご協力頂いた出雲市ゲートボール協会様には大変お世話になった。感謝している。

この出雲南LC旗争奪ゲートボール大会が、地域に密着した出雲南ライオンズクラブのアクティビティとして末永く継続することを願っている。

（環境保全委員長／錦織立志）

337-B地区

宮崎県・日向ライオンズクラブ

継続40年、クリスマスケーキ作りを支援学校にプレゼント

2013年12月5日、日向ライオンズクラブ（吉川順治会長／39人）は県立ひまわり支援学校にクリスマスケーキ作り体験をプレゼントした。これは、当クラブのメーン・アクティビティであり、継続40年になる。

この事業を行うことになったきっかけは、菓子商を営むライオン内田幸一だ。彼が「私に何か出来ることがあれば」と支援学校にお伺いを立てたことに始まる。

当時クリスマスケーキは珍しく、子どもたちにとっては最高のプレゼントであったようだ。

その後、ライオン内田が当クラブに入会し、クラブの事業として本格的に活動を展開してきた。

ケーキ作りの楽しみは当クラブが用意した材料を使い、生徒が自分たちの手でケーキを作り上げるところにある。それぞれのグループに分かれ、みんなで協力しながら作り上げていく様はまさに天真爛漫。そしてケーキ作りで得られる喜びを体一杯で表現してくれる。

一方、クラブ・メンバーはサンタクロースやトナカイに扮して会場入り。プレゼントを配りながらメロディーに合わせて会場の雰囲気を盛り上げる。

メンバーの奮闘もあり、恐らく年間学校行事の中では一番にぎわいを見せる行事の一つとなっているだろう。

終わりに生徒代表からお礼の言葉と手作りのクリスマスオーナメントを頂く。ライオンズからは来年の約束をしてお開きとなるのが恒例だ。

生徒の楽しげな笑顔が、いつまでも心に残るクリスマスケーキ作りの一日である。

（青少年育成委員長／児玉憲幸）

336-D地区

島根県・松江ライオンズクラブ

原寸大のクジラの絵を描こう！

　松江ライオンズクラブ（後藤勇会長／134人）は、4年ほど前から島根県立松江ろう学校の子どもたちとケーキ作りや芋掘り遠足を通して交流を図ってきた。今年度はその一環として、11月20日に東京から絵本作家の村上康成先生をお迎えし、先生の絵本に登場するザトウクジラを描くアクティビティを実施した。当クラブ・メンバーも参加して描くのは原寸大のクジラで、約15メートルの巨大な絵だ。

　当日は早朝から当クラブのメンバー23人が集合。ろう学校の体育館にB全の黒い画用紙60枚を並べ、12色の絵具を120個の紙コップに小分けするなど準備を整えた。松江ろう学校からは教員を含め58人が参加。全員が集合した体育館で、村上先生ご自身による絵本『くじらのバース』の読み聞かせからアクティビティは始まった。

　読み聞かせが終わるといよいよ絵を描き始める。敷き詰めた紙に、村上先生がクジラの輪郭を描き、いったんバラバラにする。そのパーツごとにおのおのが自由にクジラの傷をモチーフとした模様を描いていく。大人も子どもも、皆が夢中になって筆を走らせることおよそ2時間。再び元の形に全てのパーツを貼り合わせていくと、とても迫力のあるカッコイイ「くじらのバース」が姿を現した。

　後日ろう学校を訪問したところ、子どもたちが村上先生に出すお礼の手紙を一所懸命書いていると、小学部の先生からお伺いした。ライオンズクラブの活動が新たな交流の一端を担ったことを大変うれしく感じている。

（視聴覚・保健委員長／山本勝己）

333-B地区

栃木県・宇都宮ひかりライオンズクラブ

第37回げきと音楽のつどい開催

　2013年の11月26日、宇都宮ひかりライオンズクラブ（金子利雄会長／21人）は「げきと音楽のつどい」を開催した。この事業は当クラブの結成以来、毎年1回行ってきたもので、今回で37回目を数える特別支援学級の子どもたちの合同学習発表会だ。今回は宇都宮市内61校の特別支援学級の子どもたち280人が参加。他校の子どもたちと合同で「伝えよう、ぼくらの心、私たちの声」をテーマに歌や劇、ダンス、合奏などを宇都宮市文化会館小ホールで発表した。

　夏休みが終わってから田仲圭二実行委員長を中心に学校側と連絡を取り合い、プログラムの印刷などの準備をしてきた。

　当日は朝早くから子どもたちが集まっていた。開会式では佐藤栄一宇都宮市長、水越久夫教育長も駆け付け、子どもたちを激励してくれた。本番では子どもたちが舞台上で、精一杯練習してきた集大成の演技をする。年々、衣装もカラフルになり、やる側にとっても見る側にとってもより楽しい発表会となっている。

　最近では会場に入りきれないほどの観客が集まるようになった。当クラブのメンバーも一日中、子どもたちを見守っている。

　そして、閉会式の後には当クラブから子どもたちに文具をプレゼントしている。すると後日、当クラブには「楽しかった」「緊張したけどがんばって良かった」「プレゼントありがとう」などの手紙が届く。当クラブではこんな交流を37回続けてきた。

333-C地区

千葉ゆうきのライオンズクラブ

貧血にならない身体を作る 驚きの食材を使った料理教室

1月20日、千葉みなと駅に近いホテルポートプラザちばの2階で、千葉ゆうきのライオンズクラブ（岩本朝子会長／23人）が日本赤十字社千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターと主催した「献血女子会SWEETSクッキング!!チョコっと早いバレンタイン＋健康スイーツで献血にGO！」が行われた。この事業は千葉ロッテマリーンズに協力してもらっており、当日はトークショーを兼ねた試食会に内竜也投手がゲストで参加することになっていた。球団ホームページなどでもPRをしてもらっていたため、マリーンズファンの女性も多数応募。定員50人に対し、100人以上の申し込みがあった。

この献血女子会、実はこの日に献血をするわけではない。献血出来る健康な身体を作るためのお菓子作り教室だ。

千葉ゆうきのライオンズクラブは結成当初から献血協力をしてきた。だが、ある問題に心を痛めていた。それは、献血したいと申し出てくれた人から採血出来ないケースが多いことだ。千葉県赤十字血液センターによると、千葉県内で献血に参加してくれ

（上）千葉ロッテマリーンズの内竜也投手は、参加者との記念撮影などで交流
（下）参加者が記念撮影をしている間はライオンズのメンバーが料理の番

る人は2012年度で約30万4千人。が、5万1千人が献血出来ないという。一番の原因は、低ヘモグロビン量。一般に貧血と呼ばれる症状だ。献血が出来ない原因の約半数を占めており、特に若い女性に多く見られる。そんな中、持ち上がったのがこの献血女子会。チャリティー・ディナーショーの獲得資金で実施された。

　当日、参加者はグループごとに作業をする。この日のメニューはチョコレートケーキとクレープ。一見、普通の料理教室のように感じられるが、テーブルの上には卵やチョコレートに混じってひじきやゴボウが置いてある。これらを使うことで体内に鉄分を取り入れられ、貧血に強い身体が作れるという。

　実演はホテルポートプラザちばのパティシエ高橋健治さん。説明を交えながら手際よく作っていく姿を、参加者は時折メモを取りながら真剣に見ていた。

　そしていよいよ、自分たちで調理をスタート。参加者たちはレシピを基に協力して作り上げていく。次第にこの日初めて会った人同士にもコミュニケーションが生まれていった。途中、内竜也投手がサプライズで登場するなど、終始参加者の笑顔が絶えない料理教室となった。

　千葉ゆうきのライオンズクラブでは今後もこの事業を継続していくつもりだ。人々のライフスタイルが変わってきている中、ライオンズクラブならではの方法で健康な身体作りの手伝いをしたいと考えている。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

337-E地区

熊本りんどうライオンズクラブ

体を張って子どもたちにメッセージ伝える教育プロレス

リングサイドからプロレスラーへ声援を送る児童たち。この不似合いな取り合わせは熊本りんどうライオンズクラブ（眞鍋豊孝会長／28人）が開いた「教育プロレス」の一幕。日頃テレビゲームに没頭する子どもたちに本物の痛みやルールの重要さを伝えようと、八代市で学習塾講師を務めるプロレスラーの幸村ケンシロウさんが09年に始めた活動だ。当初は学校でプロレスを披露することに抵抗もあったが、次第に開催を望む学校が増えている。熊本りんどうライオンズクラブが教育プロレスを開くのはこれが3回目。ライオンズの後ろ盾で、学校や保護者に理解されやすくなる効果があったという。

1月27日、熊本市立川尻小学校体育館に設置されたリングの回りには4年生から6年生までの児童が集まった。何が始まるか戸惑っているような子どもたちに、須藤聡教頭は「自分の心にどんなメッセージが届くかを感じ取ってください」と話した。

子どもたちが見守る中、まずは教諭と保護者がリングに上がり受け身の取り方などを体験した。こわごわ動くその姿から、プロの厳しさや、鍛錬した身体だから出来るということが示される。続く試合には、「ルールを守る」「対戦は1対1」「コミュニケーションは対面で」などのメッセージが散りばめられていた。生身のぶつかり合いを間近で見るのは、ほとんどの児童にとって初めての体験だ。リングに叩きつけられる大きな音や、痛みに耐える苦悶の表情、動けないほどに憔悴したレスラーの姿。その衝撃に思わず目を覆う子や、反則行為に「卑怯だぞ！」と声を上げる子もいた。

幸村さんは最後に、「自分が活躍出来る場所は必ずある。それを見つけてください」というメッセージを子どもたちに送ってこの日の授業を終えた。

（取材／河村智子）

新潟県・小須戸ライオンズクラブ

サンタクロースの気持ちで子どもたちへお菓子の袋詰め

2013年12月10日、小須戸ライオンズクラブ（田巻閣治会長／18人）は毎年クリスマスの時期に実施している園児訪問の時に配るお菓子の袋詰めを行った。

クリスマス園児訪問は発足当時から継続してきたアクティビティであり、メンバーがサンタクロースに扮し、地区内五つの幼稚園・保育園を訪ねている。最近入会した30歳代の新メンバーは幼稚園時代にこのクリスマス園児訪問を受けていたと分かり、長い間、続けられてきたアクティビティなのだと実感した。

先輩方からお話を聞くと、サンタクロースは今ほど一般的ではなかったとのこと。そのため、当時の子どもたちにとって、なおさら大きな感動となったのかもしれない。

最初は小さなケーキをプレゼントしていたが、時代を追うごとにそれがお菓子に変わっていった。が、6年ぐらい前から財政的にも厳しくなってきた。そこで大箱でお菓子を購入し、自分たちで袋詰めをすることで経費を削減することにした。だが、この作業を通してメンバーもサンタの気持ちに近付くことが出来ることが分かった。今では子どもたちへの思いを込めて袋詰めをしている。袋にお手製のライオンズシールを貼り、5種類のお菓子を詰め、検品し、各幼稚園・保育園ごとに仕分けし、訪問日を迎える。当初は段取りも悪かったが、年を重ねるごとに作業時間が短くなっている。

こうして出来上がった約500人分のプレゼントは、12月17日にサンタクロースにより夢と感動と共に届けられた。

（PR情報委員長／小見健雄）

2013年11月24日、福井本丸ライオンズクラブ（本島裕也会長／56人）は元五輪選手・伊藤華英氏によるジュニア水泳教室を開催した。会場は市内にある新田塚スイミングスクール福井校。当日は福井県内の小中学生120人が参加し、世界を知るアスリートから技術と心構えを学んだ。伊藤さんは2008年の北京オリンピックでは背泳ぎ、2012年のロンドンオリンピックでは自由型に出場した後、引退した選手だ。

伊藤さんは「水泳は姿勢が大事」と体の前方で水を捕まえる動作などを実演。また、レースで緊張する子どもに「いいタイムは緊張しないと出ない。緊張は集中している証拠だから楽しんで」と助言した。その後も美しいフォームで泳ぎの見本を披露してくれた他、「国体や五輪を目指すには考えながら日々の練習を大切にしてほしい。皆にチャンスはある」と激励した。

この事業は青少年育成に重点を置き、小・中学生を対象に計画した3事業の一つ。年初から計画し、各所の協力で伊藤さんを招くことが出来た。5年後には福井国体、7年後には東京オリンピックが開催されるため、次世代につながる事業となった。

目標に向かって目を輝かせ、生き生きとしている子どもたちを見た私たちは、夢に向かってがんばる姿に感動し、未来を担う子どもたちを後押しすることの大切さを痛感した。また、たくさんの人の思いや協力がなければ事業を実施出来ないことも改めて感じた。この事業に賛同し協力して頂いた方々に深く感謝している。（委員長／水上高弘）

福井本丸ライオンズクラブ

元五輪選手伊藤華英さんが子どもたちに水泳教室

335-C地区

京都シニア ライオンズクラブ

早川一光先生講演会「美しく老いる」

2013年10月1日、京都シニア ライオンズクラブ（15人）は10周年記念事業として早川一光先生の講演会を実施した。

午前10時、定員230人の「ひとまち交流館京都」大ホールは開会前から満杯、補助椅子を出しても足りないほどの来場者がいた。そこへ早川先生が25年以上続けているラジオ番組「早川一光のにんげん万歳」のテーマソング「ぼけない音頭」に合わせて登場。客席の大きな拍手に私たちは早川先生の人気の高さを改めて感じた。

舞台には演台や白板も用意したが、早川先生はいつもながらそれらを全く無視。聴衆の中にワイヤレスマイクを持って入り、正面のフロアを左右に動きながら、お話をされた。先生の独特のユーモアによって参加者の笑い声がホールに響き渡った。

この一般市民対象の講演会は、当クラブの結成10周年記念の事業であり、京都市老人クラブ連合会との共催という形で実施した。当日はまず、私と京都市老人クラブ連合会の副会長のあいさつで始まった。その後、335-C地区のゾーン・チェアパーソン、石井良和ライオンにライオンズクラブとは何かについて、あいさつの中で語って頂いた。

あっという間の2時間の中で早川先生は、どんな小さなことでもいいから、これはこの人がいなければ出来ないと周りから期待されるものを身に付けてほしいと話された。

なお、京都シニア ライオンズクラブの10周年記念式典は5月23日に京都駅前のホテルで開催することになっている。

（会長／大田垣義夫）

332-F地区

秋田県・大曲テンダー ライオンズクラブ

よろこびの花束 こどもたちに笑顔を!!

2013年9月15日、大曲テンダー ライオンズクラブ（41人）は秋田県大仙市の大曲市民会館で結成10周年記念事業「よろこびの花束 こどもたちに笑顔を!!」と題したコンサートを開催した。

当クラブは女性のみで構成されており、「女性らしさ」を合言葉に子どもに関するアクティビティを行っている。今回もコンサートを通じて子どもたちが家族と楽しい時間を過ごしてほしいという思いから企画した。

当日はあいにくの天候だったが、多くの方に足をお運び頂き、終始アットホームな雰囲気で進行した。親子3人で童謡を歌う「美風優（みふゆ）」を始め、ご当地ヒーロー「超神ネイガー」、自称日本一のいかさま手品師「ブラボー中谷」といった秋田県に縁のある皆様にご協力頂き、すてきな時間を作ることが出来た。

この事業は準備期間が短く、大変だったが、行動することの大切さを学ぶことが出来た。更に会員同士が一致団結したことも大きな収穫となった。

10月19日に開いた10周年記念式典では南三陸町で活動している、高校生語り部「まずもって、かだっからきいてけさいん」代表の田畑祐梨さんをお招きし、被災地での体験と今の様子を語って頂いた。これも若くしてがんばっている方の支援を目指した企画だったが、多くの刺激を受け、積極的に活動することの意義を改めて感じさせられた。

まだまだ駆け出しの私たちだが、これまでの10年間に感謝しつつ、笑顔と感動のあふれる事業を実践していけるよう、新たな気持ちで取り組んでいきたい。

（会長／吉方裕子）

337-D地区

沖縄県・恩納ライオンズクラブ

草刈り隊出動!!

恩納ライオンズクラブ（24人）は2013年11月16日、恩納村ふれあい体験学習センター周辺の草刈り並びにゴミ拾いを実施した。本来、この事業は10月5日に予定されていた沖縄リジョンの合同アクティビティ「世界ライオンズ奉仕デー：県内一斉クリーンアップ大会」の一環として実施する予定だった。だが当日は台風接近により中止。これを受けて、当クラブが単独で実施することになった。

呼び掛けが実施の1週間前になってしまったにもかかわらず、メンバーが多数参加。他にメンバーの子どもや孫、同僚らを含め、総勢22人での作業となった。

草刈りを担当する者と刈った草を集めてゴミ袋に入れる者、落ち葉をほうきで集める者。おのおのがてきぱきと動いたため、センター周辺は2時間で見違えるほど奇麗になった。

この恩納村ふれあい体験学習センターの駐車場脇には、12年2月15日、当クラブが15周年を迎えた際、友好クラブである北海道・函館グリーンライオンズクラブと一緒に植樹した「友好の記念樹」がある。今回はそんな、当クラブにゆかりのある場所を奇麗にすることが出来、感慨深かった。

活動後の例会では孫と一緒に参加したメンバーから「孫が楽しんでゴミ拾いをしていた。今後もこのような活動に参加させたいので、ぜひ機会を作ってほしい」と要望があった。当クラブの清掃活動は年1～2回と決して多くはない。だが今後、メンバー以外の人ともこのような形で交流が出来る機会を増やしていきたいと考えている。

（会長／知念圭）

335-C地区

奈良県・大和高田ライオンズクラブ

ライオンズクエスト・ワークショップ開催

2013年11月16、17日の2日間にわたり、大和高田ライオンズクラブ（布川清澄会長／47人）は単独でライオンズクエスト・ワークショップを開催した。

今までは、年2回開催される公募型のワークショップを、数人の先生に受講して頂いていた。だが、より多くの先生に知ってもらい、授業に生かして頂くため、単独開催を決定。教育委員会に後援を依頼すると共に、各学校の校長にも受講を呼び掛けてもらうなど、周知を徹底した。

当日は、地区クエスト委員長・副委員長・地区アドバイザーの方々のお力添えも頂き、北山敏和講師の下、大和高田市立の小学・中学・高等学校の先生21人が受講された。

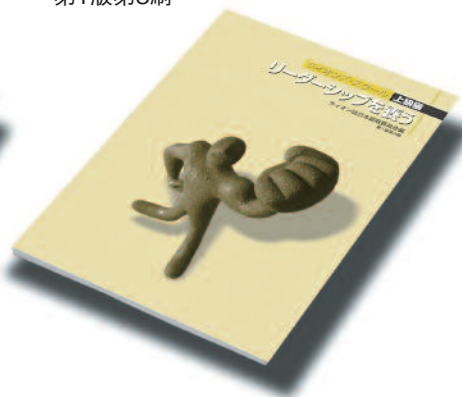
受講者のアンケートから受講の動機について「校長や教育委員会からの勧奨や要請があったので、気が進まないが参加した」という回答が若干見受けられた。そのため、受講の勧奨についてはライオンズクラブがもう少し積極的に関わり、PRをすべきだとの思いを強くした。今後の取り組みに生かしたい。

実際に受講した先生の感想では「今後の教育活動に役立つ知識や活動例を知ることが出来、大変勉強になった」「新しい視点で子どもたちを見ようと思った」などポジティブなものが目立った。また、2日間、三校種の先生方が仲良く真剣な態度で受講されており、当事業の意義と喜びを実感した。

当クラブは結成以来、青少年育成事業を中心に展開してきた。今後も更に子どもたちの未来につながり、役立つ活動・事業を目指したい。（幹事／岡村喜和）

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

●初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第4刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

●上級編・リーダーシップを養う
第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100〜499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオンズスクール・シリーズ　注文書

●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』……………… 部
●ライオンズスクール中級編『クラブ運営の基礎知識』……………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

7人の侍をゲットしよう

賀来 和紘（大分県・宇佐ながす）

バリー・J・パーマー国際会長は「夢を追いかけよう」を今年度のテーマに掲げた。

我が宇佐ながすライオンズクラブの30期23人共有の夢は、「30周年・30名会員＝7人の侍をゲットしよう」である。

会員増強の課題は古くもあり、新しくもあり、ライオンズクラブにとっては永久に変わらぬ大きな課題である。それだけに会員増強という夢の課題を毎期大きなテーマとして掲げるものの、ただのお題目と化している感がある。幸い今期はクラブ結成30周年という大きな節目の年である。会員増強の課題を全員の夢として共有することによって、実現への道を切り開けるのではないかとの思いを込め、「7人の侍をゲットしよう」と遊び心をうたいながら、夢を追いかけることにした。

我がUSA＝宇佐市には4クラブ（安心院、四日市大分、宇佐、宇佐ながす）が存在している。市内には七つの中学校区があり、我がクラブの活動域となる長洲中学校区は、更に長洲、柳ケ浦、和間の三つの小学校区に分かれている。

そこで我々はクラブ・メンバーを小学校区ごとに班分けし、各班で候補者をリストアップ。難航している班については3役が当たることにし、出来るだけ「オールながす」で会員増強を進めていった。

以前の取り組み方を省みると、年間を通じて行う増強運動は人任せ。「なるようになるさ」となりがちで、成果が現れてこなかった。この反省から、今期は9月を強化月間と位置付けた。これが功を奏して8月に1人、9月には3人新会員を迎え、計4人の会員増という結果を生み出すことが出来た。

具体的な成果が見えてくると、会員の中から「あと3人を何とかしよう」という声が上がり、今年1月の第1例会で2人の入会式を行うことが出来た。「30周年・30名会員＝7人の侍をゲットしよう」の夢は実現しそうである。この間に入会の誘いを掛けた人は20人を超えた。

イラスト／小川和政

30周年記念式典の3月16日まであと1人。夢は必ず実現させたい。そんな願いを胸に新たなる年を迎えた。きっとウマくいくと思う。

いろいろな人から「俺の人生は夢が無い」と聞くことがある。人生に夢があるはずがない。夢がその人の人生をつくるのだから……。

ライオンは常に「夢創家＝夢を創りだす人」であり、「夢追人＝常に夢を追いかける人」であり、「夢語り人＝夢を語り聞かせる人」であってほしいと願っている。

我が宇佐ながすライオンズクラブは、国際会長の言われる「夢を追いかけよう」をモットーに、「夢創クラブ」であり、「夢追クラブ」であり、「夢語りクラブ」でありたい。

私たちはあなた方を決して忘れません！

森澤 慶朗（熊本南）

「私たちはあなた方を決して忘れません！」

この言葉は、10月12～14日に東日本大震災の被災地を訪問し、被災された方々の住宅へ届けた、熊本県産生鮮食料品に同封したあいさつ文の巻頭言である。

この言葉こそ、私たちの今回の活動の原点であり全てでもある。この思いは、全ての日本人の心であり、被害を受けられた人々にとっても同じだろう。

さて、この活動を実施した経緯から話をしよう。次期準備理事会の開催中、前三役の一人から「来期は我がクラブの結成30周年に当たるから、何らかの行事をしなければならない。それなら必死に復興に向けて歩んでいる東北地方の皆様に会い、現地を目で見て肌で感じてみたらどうだろう」という意見が発せられた。これに全員が賛同した。

ただ現地に行くだけでなく、私たちが少しでも役に立てることはないだろうかと模索している中、次期幹事が「熊本県庁内にある危機管理防災課を訪ねてみよう」と、早速動いてくれた。防災課の担当者から、「被災者の皆様へ熊本県産の野菜を届けてはどうですか」とアドバイスを頂き、実行することにした。

支援先の選定、持参する品物等についても暗中模索だった。日頃からお世話になっている玉川孝元337‐E地区ガバナーに助言を求めた。ライオン玉川の人脈を通じて、宮城県・塩釜ライオンズクラブを紹介頂いた。品物は塩竈市被災者集合住宅へ届けることに決定した。

当クラブは全国南LC友好会（名称に南の冠を頂くライオンズクラブの友好会）の一員である。この会を通じて親交がある仙台南ライオンズクラブにも、多大なるご協力を頂いた。

さて当日、塩釜では品物を受け取ってくださる皆様の笑顔のすてきなこと。ご苦労も多いと思うが、困難に打ち勝ってこられたからこそ出来るこの笑顔なのだろう。

むしろ私たちが勇気を頂き、新たな感動を得ることが出来た。

帰熊後、たくさんのお礼状を頂いた。皆様の心情が伝わってきて思わず涙ぐんだ。

私たちには、いつも行動を共にしてくれている熊本南ライオネスクラブがあるが、彼女たちは今回、ご当地キャラである「くまモン」のシールが付いたリバテープ（救急絆創膏）千パックを持

参していた。これが現地の和光幼稚園に届いたようで、同園の子どもたちが一生懸命に書いてくれたお礼の言葉、野菜の絵が送られてきた。添えられた写真の中の子どもたちのとびっきりの笑顔がすてきなこと！　この子らが成長し東北の復興の一翼を担うのだと思うと、胸が高鳴る。

また今回、私たちにはもう一つ目的があった。それはテレビ、新聞等でいつも見ている南三陸の防災対策庁舎に赴き、献花をすることだ。

大津波襲来の中、必死で避難を呼び掛けて殉職された遠藤未希様、不幸にして他界された皆様の御霊が安らかに……と祈った。私たちと一緒に献花してくれた中には、遠く福井から来たという若い女性二人連れと、幼い子を抱いた若夫婦も居た。震災以来2年半有余。いまだ復興、復旧は緒に就いたばかり。一日も早く旧来の元気な東北に戻れるよう、祈念してやまない。

品物の贈呈式には、公務多忙の中にもかかわらず塩竈市長に参列頂いた。私たちとライオネスは、市長から感謝状を授与されるという栄誉に浴した。

私たちは今回の活動で、塩釜ライオンズ(クラブ)と東北の皆様の絆の深さを教えて頂いた。これは私たちの今後のライオンズ活動にとって、かけがえのないものとなる。

「私たちは、あなた方を決して忘れません！」

この気持ちはこれからも変わることはない！

（クラブ会長）

目から鱗——新島八重の話から——

杉山　修（京都堀川）

「目から鱗が落ちる」という言葉がありますが、ある団体の研修会で同志社大学教授・本井康博先生の「日本の元気印・新島八重」の講演を聞き、また先生の同名の著書を読んで、私は本当に「目から鱗が落ちる」ということはあるのだなと感じました。

私は56年間京都に住んでいますが、私の会社に近い御所東の寺町通りを通る度に不思議に思っていたのが、あの有名な鴨沂(おうき)高等学校の古ぼけたお寺の山門のような校門のことでした。

先生の話を聞いて、あの門は新島八重の兄の山本覚馬が京都で、いや日本で初めて創設した女性の教育を専門にした学校「女紅場(にょこうば)学園」の門をそのまま移築したものであると知り、「ああそれでか」と、くすぶっていた長年の疑問が一遍に解けた気がした次第でした。

なお「女紅場」という名称は現在も学校法人八坂女紅場学園として立派に現存しており、私自身この八坂女紅場学園に若干関与させて頂いていることもあって特に印象に深く残りました。

それよりも更に私がショックを受けたのは、86歳で亡くなった新島八重の没年が1932（昭和7）年だったことです。実はこの年に私は生まれました。

現在私は81歳なので、私が生まれ育って生きてきたこの81年を逆に数えた年月の頃に八重が生まれ、それから十数年後に戊辰戦争があり、八重が鉄砲を持って会津城（鶴ケ城）で闘い、大政奉還があって日本は明治維新となり、その後の日本は西洋の知識を積極的に取り入れ、目覚ましい発展を遂げてきました。明治維新と言えばずっとずっと昔のことと思っていたのが、つい最

近のことだったと気づかされました。私は維新後約150年間の日本の歴史の中で、その半分を生きてきたことを改めて考えさせられた次第です。

その後、ある会合の席でそんな話をしたところ、隣席に居た京都で有名な会社経営者のU氏が、

「杉山さん、京都で今全盛を誇っている裏千家、表千家等の茶道会は新島八重に足を向けて寝られないはずですよ。というのは明治までお茶の世界は全て武士を中心とした男の世界だった。それを新島八重が女性に茶道の道を開いたのがきっかけで、その後茶道は女性の世界となり、現在の繁栄につながったのです。新島八重のおかげですよ」

と。またその隣に居た著名な書家のK先生が、

「実は山本覚馬の子孫が私のロータリークラブに居ます。今、彼は建築関係の仕事をしています」

と話題が広がりました。

本井教授から新島八重の話を聞いて以来、私の近辺には八重を取り巻く話題が多くなりました。もちろん昨年1年間にわたったNHKの大河ドラマ放送もあって、京都は現在でも八重ブームの名残が続いています。私も所属するライオンズクラブで本井教授に講演をお願いし、女性クラブからも多くの参加を頂き、好評を博しました。我がライオンズの社会も、今もし新島八重が現れていたら、いずれ女性中心の社会になり、華やかにそして美しく発展するであろうと、ひそかに八重に代わる女性リーダーの出現を期待している次第です。

（335複合地区長期計画リサーチ委員長／元地区ガバナー）

決して忘れない

鷹栖 律子（栃木県・那須ハーモニーシニア）

未曽有の東日本大震災から2年半が過ぎた9月9日、岩手県山田町立大沢小学校を訪ねた。栃木県から500キロも離れた遠い地へ、クラブ・メンバー一同の心をかき立てたのは、震災後間もない頃、朝日新聞の一隅に見つけた記事に端を発する。

家を失い、家族を亡くし放心状態の中でも、明日に向かって強く歩き出そうとする子どもたちの姿。それに応えようにも画用紙どころか紙一枚、クレヨン1本が無い、無い無いづくしの中で苦悩する佐藤先生の記事だ。私たちはたとえどんな小さなことでも、必要とされている支援を始めようと思った。

早速、とてつもなく大きな段ボール箱に、子どもたちが手作りするという新聞用の紙、模造紙、カラーペン、マジックペン、ハサミ等々、ありとあらゆるものを詰め込み送った。間もなく、子どもたちの新聞「海よ光れ」が届いた。紙面には、家族を亡くした悲しみを胸にしつつも、未来に向けてたくましく羽ばたこうとする姿が、卒業直前の子どもたちの自筆で書かれ、思わず涙がこぼれた。

いつの日か大沢小学校を訪ねたいという思いに駆られた。

そして今年、チャーター・ナイト10周年を迎えるに当たり、記念事業として大沢小学校への訪問が実現した。校舎は高台にあり幸いにも津波の被害は免れたが、多くの子どもたちが家を失い家族を亡くしたという。校庭には今も仮設住宅が並び、4割近い子が仮設住宅に住むとのこと。児童たちは運動

場が無いため成長期に必要な運動が不足し、少々肥満気味だと先生は嘆いた。
　しかし、それよりもっと深刻なのは、多くの子が抱えるＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）だという。校長先生は、ＰＴＳＤが将来に及ぼす影響を憂慮され、メンタルケアが最大の課題だと顔を曇らせた。
　こんな中で、私たちは用意していった薬物乱用防止の紙芝居を見せても良いものか一瞬迷ったが、学校側の計らいで6年生を対象に実施することになった。手作り紙芝居をパソコンからスクリーンに映しメンバーが演じる朗読劇を、皆が食い入るように見ていた。最後に「ダメ。ゼッタイ。」の約束事を唱和して終えると、次々に挙手し熱心に感想を述べてくれた。
　震災により営々と築いてきた人々の生活が瞬時にして奪われてしまった凄まじい光景が、とても現実のものとは思えなかった。しかし時が過ぎ、人々の脳裏から少しずつ遠い記憶となり、忘れられ風化してしまうことが一番怖いと、先生も子どもたちも危惧する。「私たちを決して忘れないで」という言葉の重みが痛いほど心に響いてくる。
　訪れた山田町。今もあちこちに残るがれきの山、住宅の基礎。人の住まなくなった後に背丈ほどの雑草の生い茂るさま。消えてしまった街のどこを見ても荒漠とした風景。復興にはまだまだ遠い道のりを実感しつつ、私たちは子どもたちに別れの手を振った。「決して忘れない」の言葉を添えて。
　児童からの礼状の一部を紹介したい。
「わざわざ栃木県から来てくださりありがとうございました。薬物乱用防止教室を体験して、薬物が身近にあることを初めて知り勉強になりました」
「震災の時から文具など支援してくださりありがとうございます。おかげで毎日を楽しく暮らせています。薬物は絶対断ります」
「覚せい剤という言葉は聞いたことがあるがアイスとかスピードなど別の呼び名もあることを知りませんでした。怖さを忘れません」
「紙芝居で分かりやすかった」
「脳や目を刺激して幻覚を見るなんて怖い」
「大沢小学校へ来てくださりありがとうございます。大人になる過程で薬物を絶対使わないと改めて決意しました。私たちのことを忘れないでくれてありがとうございます」

（333-B地区第3リジョン第2ゾーン・チェアパーソン）

熊本市

肥後鍔

選りすぐりの熊本グルメ23店が集まる熊本城の新名所「桜の小路」。その一角に老舗和菓子屋「香梅庵」がある。この店の人気メニューが、きんつばとお茶の茶屋セット。おいしいのはもちろんだが、100円という値段も人気の秘密だ。

きんつばというと、四角いものを思い浮かべる人が多いと思うが、もとは丸かったらしい。江戸中期に京都で考案され、その色と形から「ぎんつば（銀鍔）」と呼ばれた。それが江戸に伝わって、「銀より金の方がいい」と「きんつば（金鍔）」となり、更に明治になってから角型が考案され、そちらが一般的になったようだ。

香梅庵は、発祥の丸型にこだわり、丸型3面焼きの製法は特許取得済み。以前は「まるきんつば」という名前だったが、芸術的価値が高く、「刀は備前、鍔は肥後」と言われたブランド鍔にあやかり、「肥後鍔」に改名した。北海道の大納言小豆を阿蘇の伏流水で炊いた上品な餡が味の決め手。

●「熊本城香梅庵」熊本市中央区二の丸1-1-2　城彩苑桜の小路

ふるさと探訪

山口県宇部市

文／砂山幹博　写真／田中勝明

月待ちがにと、彫刻に彩られた街

宇部

UBE

山口市
JR山陽新幹線
山陽自動車道
周防灘
山口宇部空港

山口県 宇部市

山口県西部の周防灘（瀬戸内海）に面した都市。山口県西部の拠点都市の一つであり、県内では下関市、山口市に次ぐ人口を擁する。明治期以降の石炭産業の振興で街は大きく発展。その後、近代的な工業都市へと変ぼうを遂げ、現在も瀬戸内有数の臨海工業地帯を形成している。
総面積／287.71平方㌔。
総人口／172,096人（2013年12月1日現在）

市内沿岸部は瀬戸内有数の臨海工業地帯。石灰石運搬用の専用道路を連接型のダブルストレーラーがひっきりなしに行き交っていた（撮影協力：宇部興産㈱）

満月の度に育つカニ

宇部沖で漁獲されるワタリガニを、宇部市では「月待ちがに」と呼んでいる。満月の度に脱皮して大きくなることから、1997年に宇部観光コンベンション協会が命名して以来、知る人ぞ知る宇部名物となっている。波が静かで比較的水温が高い場所を好むワタリガニにとって、瀬戸内海はどこもが棲みよい環境。そんな中でも、宇部近海は特に漁が盛んだ。漁業者が多いこともあるが、1年を通してワタリガニの水揚げがある。

最も多く捕れるのが春先。卵を産むために沿岸部に寄ってきたのをカニカゴで捕獲する。時期によっては刺し網漁も行われるが、寒くなってくるとカゴにも網にも入らなくなる。ワタリガニは秋から冬に入ると海底の砂の中に潜ってしまい、動きがにぶくなる習性がある。だから冬期はマンガン漁と呼ばれる桁網漁が主流となる。クワのような漁具で底の砂ごと掘り起こして、クワの後ろに付いている網で獲物を捕獲する底引き漁の一種だ。他地域ではあまり見掛けることのない宇部独特のワタリガニ漁だ。

浅瀬は禁漁区となっているため、主な漁場は港から1時間近く沖に出た海域。漁が出来るのが7時から17時と決まっているので、多くの船が早めに漁場に着いて待機する。時間になると、例のクワを海底に下ろして船を40分ほど移動させ、網を揚げ

10月から3月にかけてメスは鮮やかなオレンジ色の内子を抱える。内子のとろけるような食感と濃厚なうまみを味わうには、茹でるか蒸すかのシンプルな調理法が一番

満月を迎えるたびに成長することから、宇部市近郊で捕れるワタリガニは「月待ちがに」の名で呼ばれる

ること8〜9回。ヒトデや貝に混じって月待ちがにが姿を現す。

マンガン漁が行われる冬、ワタリガニはちょうど旬を迎え、1年の中で最もおいしく頂くことが出来る。身の甘さと味の濃さもさることながら、甲羅の裏には鮮やかなオレンジ色の内子と濃厚なカニみそがびっしり詰まっているため、この時期を心待ちにしている地元ファンも多い。水揚げされたワタリガニは、一部が宇部で消費される他は他県へ流通する。事前に予約をすれば市内の料理店でも「月待ちがに」にありつくことが出来るので、機会があれば、ぜひとも味わってもらいたい。

ツアーで体感する宇部

瀬戸内工業地帯の一角をなす宇部市の今日の発展は、1897年に海底炭田が開鉱されたことに始まる。海底を掘り進んで石炭を採取した後、掘り上げた土で臨海部を埋め立てて用地を造成し、現在の工業地帯が築かれた。その中心的な役割を果たしたのが、今も本社機能の一部と主力生産拠点を市内に置く宇部興産だ。炭鉱会社やセメント会社など4社が合併して出来た同社は、隣接す

る美祢市伊佐地区の石灰石の採掘場と、宇部市沿岸部にある拠点工場を結ぶ専用道路を建設した。1967年着工、82年に全通した通称「宇部興産道路」は、全長34キロにおよぶ日本一長い私道だ。私道扱いであるため道路交通法が適用されない。そのため国内では規格外の80トン積ダブルストレーラーがひっきりなしに往来し、石灰石の大量輸送を可能にしている。

経済的に考えて、石灰石を運ぶためだけならベルトコンベヤーで十分である。しかし、100年先を考えた時、道路を建設した方が地域振興に役立ち、汎用性があるとの英断が下された。社内や株主からは反対意見もあったが、緊急時に救急車や警察車両がこの道路を利用することが何度もあり、先見性が裏付けられた。

ダブルストレーラーが行き交う宇部興産道路や石灰石が採掘される現場は、本来は関係者以外の立ち入りが禁じられているが、一般客でも見学出来る方法が一つある。2007年から宇部市と隣接する美祢市、山陽小野田市が共同で実施している産業観光バスツアーへの参加だ。石灰石からセメントが作られる過程を体感出来る「セメントの道」コースや、宇部の炭鉱史を追うものなど、全18コースのツアーが用意されている。産業観光以外にも、伝統工芸の現場へ赴くコースがあり、ふたに手の込んだ模様が彫られた赤間硯や、和琴の製作現場など、普段なかなか触れることのない体験が出来るとあって好評を博している。

灰色の町から、彫刻の街へ

宇部は中心街だけでも60体以上が点在する彫刻の街でもある。作品はいずれも市の主催で2年ごとに開催される野外彫刻の公募展「UBEビエンナーレ（現代日本彫刻展）」の歴代上位入賞作品。ときわ公園の彫

赤間関（現在の下関市）で作られ始めたことからその名が付いたと言われる「赤間硯」。現在では市内岩滝地区に残る4軒だけが、昔と変わらない製法で硯を作り続けている。ふたに彫刻が施されているのが特徴で、実用はもとより贈答品などに利用されている（撮影協力：玉峯堂）

見渡す限り360度が茶畑。山口茶・小野茶のブランド名で知られる市内小野地区は、1カ所にまとまった茶畑の規模としては西日本最大の規模を誇る

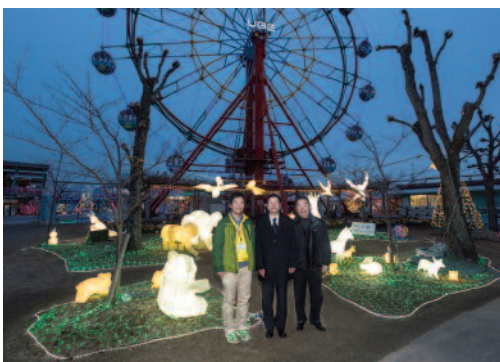
刻野外展示場に展示される他、市街地や公園などに設置され、町はさながら野外彫刻館の様相を呈している。なぜ宇部は彫刻の町となったのか。

第二次大戦で市街地のほとんどを空襲で消失。宇部は灰色の町となったが、再建にかける市民の熱意と戦後の好景気に支えられ見事復興した。しかし一方で、工場からの煤煙による公害も深刻になっていた。市は、市民や企業と協力し煤煙対策に取り組むと共に、街に1万本の木を植樹、更に企業に寄付を募って花を植え、人通りの多い駅前に18世紀の彫刻家ファルコネの作品のレプリカを設置した。すると予想外のことだったが、乗降客が彫刻の前で足を止め、写真や絵に収め始めた。これがきっかけで、子どもたちに本物の彫刻を見せようという話に発展。市民の熱意は日本を代表する美術関係者らも動かし、1961年、日本初となる大規模な野外彫刻展が宇部で開催され、現在に至っている。以来半世紀、灰色の町の彫刻展は、国内外の新人彫刻家の登竜門として定着。近年では彫刻家と市民との身近な触れ合いの場も増え、市民の彫刻に対する理解や愛着心は年々深くなっている。

▼取材協力クラブ

宇部ライオンズクラブ（金重泰夫会長／48人）＝1959年5月30日結成／スポンサー：広島鯉城ライオンズクラブ／代表的なクラブ・アクティビティは、今回で39年目となる市民教養講座。毎年3～4人の講師を招き、市民を対象に公開講座を行っている。本年度は有森裕子氏、池上彰氏、竹田恒泰氏による講話を予定。また、市の活性化事業の一つであるイルミネーションコンテストにも3年連続で作品を出展し、市民の目を楽しませる活動も。一昨年には見事グランプリも受賞した。

ときわ公園内にあるこの作品は、宇部市民なら誰もが知っているという宇部を象徴する彫刻。材料が手に入りにくかった1962年に、廃材をつなぎ合わせて作った高さ6㍍の大作だ。当時日本最大の抽象野外彫刻であった（撮影協力：ときわミュージアム 彫刻野外展示場）

市内の船木地区は山陽道の宿場町で、往時には花街としてもにぎわいをみせていた。この地で約50年前から琴の製造を行っているのが琴司（ことし）の玉重彰彦さん。良い音色を奏でそうな桐材を見極め、美しい曲面を持った琴に仕上げていく（撮影協力：㈲たましげ）

イルミネーションコンテストへの出展作品の前で（ときわ公園）

読者から—1月号

■目標の達成とその方法

会員増強に対する国際会長の考えと思いはよく理解させて頂きました。私も全く同感です。ただ、ライオンズクラブの目的を鑑みる時、ただ量を増やすのではグッドスタンディングをベースにした組織運営の継続が危ぶまれるのではないかと感じざるを得ません。今後は会員増強という目的の達成とその方法に対する考え方の整合性を取っていくことが大切かと思います。

広島県・呉ライオンズクラブ●濱井雅彦

■必要なところにお金をかける

THEME：シンガポール・フォーラムの記事でフォーラムの講評がされていました。もちろん行き過ぎは良くありませんが、改善すべき点はお金をかけてでも改善すべきだと思います。OSEALフォーラムには多国籍の会員が出席されます。言葉が理解出来ないと退出するのは道理だと思います。私もフォーラムに参加して思いました。

宮崎県・延岡五ケ瀬ライオンズクラブ●岩切武則

■献金目標の周知を

LCIF FILEを読んで初めて献金目標が設定されていることを知った。このことは、もっと全国に分かりやすく各クラブ単位に解説出来るよう告知すべきである。332複合地区が達成率最上位にあることは、所属する者としてはほっとしている。

青森中央ライオンズクラブ●出戸端徹

■台風被害とライオンズ

フィリピン台風30号は、日本での台風の常識をはるかに超え、その被災状況は、悲惨さを極めた。現地の交通網、建物の脆弱さなどが被害の拡大につながったものと思われる。ただ、現地のライオンズの迅速、的確な行動、支援は驚くほどすばらしかった。日本でも義援金、募金などの支援活動が行われた。

今回は現地の治安が、割と安定していたのが救いだった。この災害を通して、ライオンズの存在意義がより一層高まったこと、両国のライオンズの交流が深まることを期待している。

新潟内野ライオンズクラブ●清水雅昭

■地区ごとの増減にも注目

日本ライオンズクラブ分布図によると私の在籍している330・C地区では4カ月連続で会員数が減少している。日本レベルで見ても333・C地区と二つの地区のみが連続で減少している。この2地区には何か共通の問題、課題があるのだろうか？ 興味がある。会員が増加している地区と、していない地区とで話し合いをしてみるとか、指導してもらうとか考えてみてはどうだろうか？

埼玉県・浦和東ライオンズクラブ●大林和弥

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

1・16 岩手県藤沢岩手　高橋義太郎

1・22 北海道札幌グリーン　高野　倫行

読者プレゼント

■工房地球村の「手づくりいちごジャム」を読者5人に

「被災地のライオンズは今」で紹介した宮城県山元町の共同作業所「工房地球村」。利用者の皆さんが、山元町特産のいちごで作った「手づくりいちごジャム」（180グラム）を2本セットにして5人の読者にプレゼントします。工房地球村のオンラインショップでも売り切れが続出する人気商品です。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「いちごジャム」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は3月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=c.／第2問=a.／第3問=a.／第4問=b.／第5問=a.

もう一度読みたい「あの記事」

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

●1965年10月号　クラブ・リポート

「災害地小伊津を見舞う／水害地へ救援隊送る！」

「災害地小伊津を見舞う」

渡部惣治（平田ライオンズクラブ）

7月22日、1週間にわたって降り続いた山陰豪雨は島根県下の至る所で被害続出、川本町につぐ小伊津町の山崩れはまさに言語に絶するものだった。

岡会長を始め8人の慰問団は、カラリと晴れ上がった炎天下を、小伊津町トンネルまで行ったところ、福田市支所長殿が入り口まで出迎えてくださった。山崩れでトンネルの出口が小さく、福田所長の案内で急斜面な山を炎天下に行軍。20年前の山西省山岳地帯を思わせるようだった。やっとたどりついた時には全員が既年配者のためか玉の汗。

小伊津町の山崩れで町の一角に向けて流れ出した土砂はあっという間に13軒の家屋を押し潰した。第1回の地動で地区民全員に避難命令が出されてから第2の地動まではあっという間だった。だが、1人のけが人も出なかったことは、地区の指導者の良き勘と驚き、感嘆した。

おびただしい累積土砂の取り除きには半年くらいかかるであろう。また、今も山の頭上には第2、第3の危険を深く感じさせられる。専門家ではないが、小伊津町という街全体の環境条件があまりにも大きな危険性をはらんでいるような気がしてならない。前年の大きな火災にしても、地元民の皆さんがあまりにも犠牲に慣れたような錯覚すら感じさせられるものがある。この際県なり市なりの当局者は災害に対する原始的な施策にとどめず真剣に取り組んでほしい。当局の深い思慮と善処方を強く要望する。目の前に横たわる危険を見落としてはならない。

「水害地へ救援隊送る!!」

中村助太郎（大田ライオンズクラブ）

7月20日、山陰地方を襲った豪雨は、23日まで一瞬の休みもなく降り続いた。雨量330ミリ。たちまち道路も田んぼも海と化し、人心は不安のうちに明けくれた。今回の水害で最も被害の大きかった島根県川本町は江川の沿岸に位置している。上流の浜原町にある中国配電のダムから押し流された鉄製ブイに堤防を破られ、県道に架かる吊り橋も破壊された。山間部は山崩れのため一時は交通途絶の状態となった。わずかに、県の災害対策本部のヘリコプターが連絡に通うだけで全く手の施しようもなかった。

7月24日、大田ライオンズクラブは、救援隊派遣のため緊急役員会開催中、「三谷部落へ迂回して山道を行けば、どうにか川本町へたどり着けると言うので、今毎日新聞の記者が取材のため車を飛ばした」というニュースが入り、しめたと勇気百倍、南会長は直ちに見舞い品を調達して義勇隊にも比すべき若手メンバー15人を引率、救援物資は自動車8台に満載して現地に急行した。国道を20キロも走った頃、迂回道に進む。くねりくねりと山道を進む車列の速力は鈍く、気は急く……。

やがて江川が見えた。悪魔のような濁流がものすごい勢いで流れている。町に入ると異様な臭気が鼻をつく。泥水はいまだ家の中を流れている。目も当てられぬ惨状である。

川本ライオンズクラブは我が救援隊を心から喜んでくれた。隊員は一様に「ああ、来て良かった！」と喜ぶ。恐らく我々が民間救援隊の第1号であったろう!?

ライオン誌例会のススメ
—次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

■日本初の女性会員が入会したクラブ

ライオンズクラブに女性の入会が認められたのは、1987年7月。台北国際大会に上程された国際会則改正案が可決され、会員の資格条件から「男子」の文字が削除された。日本初の女性会員が誕生したのは、その2カ月後の9月。新たに結成された熊本県・西合志ライオンズクラブのチャーター・メンバーに4人の女性が加わった。当時第3副会長だった緒方ミヨキは次のように所信表明している。

「一つの家庭があり妻がいて家庭が構成され社会の基盤が出来てゆくように、（略）お互いの人権と能力を尊重し合ってゆけば、きっとスムーズに運営されてゆくはず」

この日・この月

3月22日は国連が定める「**世界水の日**」。1992年にブラジルで開かれた地球サミットで提案され、翌93年の国連総会で決定した。国連開発計画によれば、世界で約9億人が汚れた水しか飲むことが出来ず、25億人が衛生的なトイレを利用することが出来ない。近年、水を取り巻く世界の状況は厳しさを増している。発展途上国では人口増加による水不足や水質汚濁が深刻化。また気候変動の影響による干ばつや洪水で、安定的な水の供給が困難になっている。

こうした水問題に対してライオンズも支援を行っている。日本のクラブはカンボジアやマレーシアなどに井戸や水道設備を敷設。ヨーロッパのライオンズはアフリカで安全な水を提供する支援に取り組んでいる。

今月号の記事から

今月号THEME（5～19ページ）は東日本大震災の追跡取材第4弾。被災地支援の在り方を考える記事と、被災3クラブの現況を取材しました。どこかで大規模災害が発生した時、あるいは自分たちの地域が被災した時、クラブとしてどう動くか。話し合っておいてはいかがでしょう。

■訂正とお詫び

2月号「ライオンズ・ニュース・カセット」の「クラブ名称変更」（26ページ）の記載に誤りがありました。鹿児島県・川内よさこいライオンズクラブの変更前のクラブ名は、正しくは**樋脇よさこい**ライオンズクラブでした。関係各位にお詫びし訂正致します。

クイズ de 例会

〈第1問〉災害時の緊急支援のため、地区ガバナー申請に対して交付されるLCIF交付金は？

a. 一般援助交付金
b. 四大交付金
c. 緊急援助金

〈第2問〉大規模災害の復興事業のために交付されるLCIF大災害援助金の限度額は？

a. 100万ドル　b. 200万ドル
c. 300万ドル

〈第3問〉大災害援助金の限度額を大幅に引き上げるきっかけになった災害は？

a. 阪神淡路大震災
b. 9.11同時多発テロ
c. インド洋大津波

〈第4問〉東日本大震災の被災地支援のためLCIFに寄せられた指定献金の総額は？

a. 1千万ドル　b. 2千万ドル
c. 3千万ドル

〈第5問〉緊急事態や災害に対応するための協会プログラムの名称は？

a. アラート　b. アラーム
c. スマート

★回答は54ページ下

次号予告

LION

THEME **大人の社会科見学Ⅲ**

第3弾は障害者就労支援編。働くことは自立の第一歩であり、生きがいにもつながる。障害者の就労をサポートする東京世田谷ライオンズクラブと東京三軒茶屋ライオンズクラブの活動を取材。また障害のある人たちに積極的に働く場を提供しているライオンズ会員企業を紹介する。

躍動と静寂のお白石持行事

ライオン誌
日本語版委員
◉
組嶽晶一
（島根県・東出雲）

伊勢神宮式年遷宮の祭事の一つに、お白石持行事があります。三重県下を流れる宮川から拾い集めたお白石を奉曳車に乗せ、真新しい御正宮近くに奉献する行事です。伊勢参宮の前に古来、夫婦岩で知られる二見興玉神社にて清めのおはらいを受け、一日特別神領民としてこの奉仕を務めさせて頂きました。

奉曳車は「エイヤー」の掛け声と共に市中を進み、ご神域に入ってからは一人ひとりが白布にお白石を包み捧持して御垣内に進みます。

天照大御神を示す「太一」の立札が掲げられた奉曳車から延びる2本の白い曳き綱は長さ約260メートル。それぞれ千人ずつが片手で持って曳き、片方の手を天に突き上げ「エイヤー、エイヤー」と声を掛けながら、心一つに進むのです。出発地点から宇治橋までの「おはらいまち」と言われる町筋800メートルを進む約1時間の間、休みなくこの掛け声が続きます。綱を曳く人たちは上は93歳から幼児までそろいの法被に鉢巻をして、笑顔があふれる童の心になってすがすがしい汗を流しました。

この躍動的な「動」の時間の後は、一転して粛々と宇治橋を渡り内宮ご神前に進みます。特別の平水場で心身を清めた後、白布とお白石を両手で捧げ持ち、神宮神職から特別のおはらいを受けて、厳粛な面持ちで内宮の奥へと静かな参進となりました。聞こえるのはただ踏みしめる玉砂利の音だけ。新宮に至る間は絶対の静とも言える時間です。

激しい「動」と深い「静」の両極の狭間に生み出される味わいは、他では体感出来ないものです。1400年の昔からほぼ20年ごとに62回のご造営を重ねてきたご正殿を仰ぎ見た時は、精緻を極めた匠の技と日本美の極致に胸熱くなりました。いよいよ新宮への到着です。国家永遠の発展と東日本大震災の1日も早い復興を祈りながら、両手にしたお白石をそっと置き供えさせて頂きました。

この度の遷宮には全国の会員の方々が関係されたと思います。代表して一端の報告とします。

Official publication of Lions Clubs International

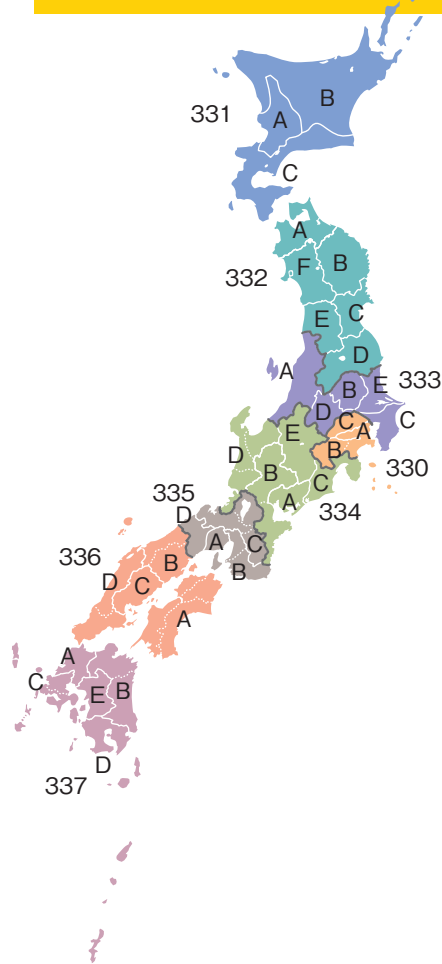
Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ　2014.1.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	女性の割合%	期首からの増減
330-A	東京	201	5,395	4,348	1,047	19.4	591
330-B	神奈川·山梨·東京	167	4,808	4,104	704	14.6	178
330-C	埼玉	93	2,221	1,968	253	11.4	16
330	計	461	12,424	10,420	2,004	16.1	785
331-A	北海道(道央)	73	2,465	2,238	227	9.2	106
331-B	北海道(道北·道東)	88	2,424	2,291	133	5.5	30
331-C	北海道(道南)	52	1,762	1,572	190	10.8	4
331	計	213	6,651	6,101	550	8.3	140
332-A	青森	66	1,960	1,632	328	16.7	110
332-B	岩手	53	2,192	1,564	628	28.6	38
332-C	宮城	75	1,582	1,272	310	19.6	35
332-D	福島	73	2,064	1,831	233	11.3	126
332-E	山形	56	1,813	1,600	213	11.7	41
332-F	秋田	47	1,332	1,046	286	21.5	4
332	計	370	10,943	8,945	1,998	18.3	354
333-A	新潟	76	2,936	2,523	413	14.1	159
333-B	栃木	53	1,443	1,061	382	26.5	74
333-C	千葉·東京	141	3,459	2,861	598	17.3	-31
333-D	群馬	52	2,112	1,659	453	21.4	121
333-E	茨城	80	3,006	2,596	410	13.6	177
333	計	402	12,956	10,700	2,256	17.4	500
334-A	愛知	120	5,305	4,529	776	14.6	315
334-B	岐阜·三重	82	4,608	3,396	1,212	26.3	365
334-C	静岡	82	3,217	2,984	233	7.2	157
334-D	富山·石川·福井	99	4,104	3,657	447	10.9	287
334-E	長野	52	2,105	1,772	333	15.8	174
334	計	435	19,339	16,338	3,001	15.5	1,298
335-A	兵庫(東)	90	2,178	1,855	323	14.8	30
335-B	大阪·和歌山	178	5,631	4,821	810	14.4	251
335-C	滋賀·京都·奈良	119	3,900	3,554	346	8.9	68
335-D	兵庫(西)	65	1,879	1,658	221	11.8	14
335	計	452	13,588	11,888	1,700	12.5	363
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	149	5,696	4,783	913	16.0	397
336-B	鳥取·岡山	96	3,073	2,754	319	10.4	8
336-C	広島	101	3,348	3,134	214	6.4	23
336-D	島根·山口	96	3,179	2,881	298	9.4	113
336	計	442	15,296	13,552	1,744	11.4	541
337-A	福岡·長崎	115	4,514	3,906	608	13.5	71
337-B	大分·宮崎	71	2,294	2,115	179	7.8	30
337-C	佐賀·長崎	83	3,183	2,581	602	18.9	184
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,346	2,135	211	9.0	32
337-E	熊本	58	1,591	1,410	181	11.4	59
337	計	407	13,928	12,147	1,781	12.8	376
総計		3,182	105,125	90,091	15,034	14.3	4,357
世界のライオンズの		6.9%	7.7%	8.9%	4.4%		

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2014.1.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	208
世界のクラブ数	46,206
世界の会員数	1,358,652
※男性会員数	1,013,075
※女性会員数	345,577
期首からの増減	11,257

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	11,887	332,894	-4,868
インド	6,160	230,546	4,866
韓国	2,077	78,879	622

ライオン誌3月号 昭和33年12月19日付第三種郵便物認可 定価180円 送料実費76円
2014年(平成26年)2月20日発行 毎月1回20日発行 第56巻第9号
発行所 ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所 〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 Tel 03-3542-9571
印刷所 共同印刷株式会社

大船渡屋台村

●Aoi（小料理店）●青い麦（居酒屋）●綾（鍋料理）●おふくろの味　えんがわ（おふくろの味）●焼き鳥　おや爺（焼き鳥）●神菜月（居酒屋）●かあさんのおもてなし　喜楽（おでん）●鮨・季節料理　ささき（寿司店）●七厘長屋（四元豚料理）●ら～めん　伝（ラーメン店）●ちょっと寄り処　卓（どんぐり）（小料理店）●なにわ屋（お好み焼き）●旬菜美味　ひろ（和食）●のみ処　槇（小料理店）●山福（鮨・天ぷら）●ゆめんちゅ（沖縄料理）●もっきり酒場　らんぷ亭（もっきり酒場）●居酒屋　るうぶる（創作家庭料理）●濱DINING わいTable（居酒屋）●田舎料理 かぁさん（田舎料理）

大船渡屋台村
岩手県大船渡市大船渡町字野々田19-1
http://www.5502710.com/
https://www.facebook.com/253382548052072

大船渡屋台村はLCIFの東日本大震災指定交付金を受けました